

8. 社会参加について

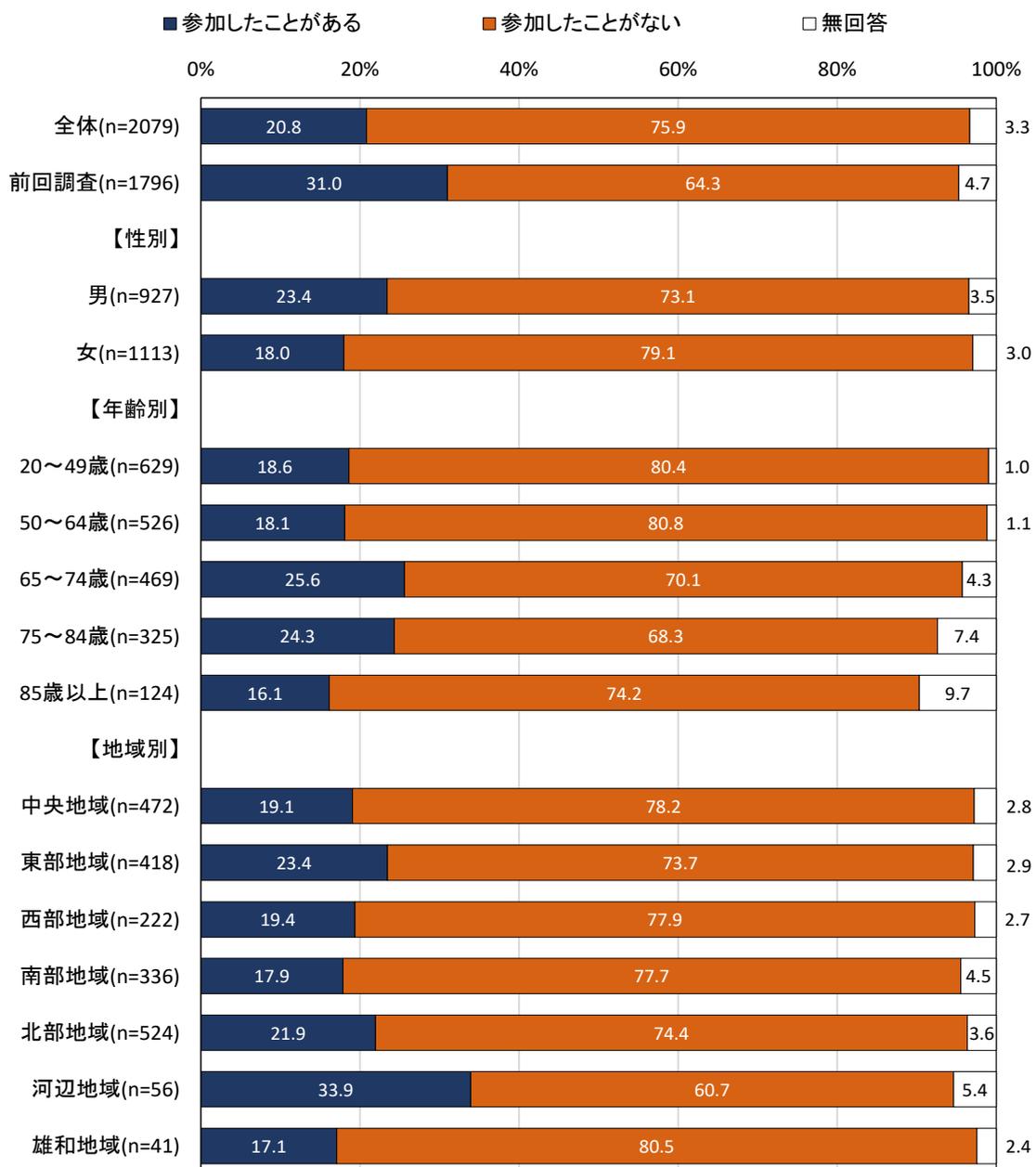
問 33 過去1年以内に、個人又は団体等で行うスポーツや生涯学習など何らかの活動に参加したことがありますか。次の中から1つ選んで番号に○をつけてください。

過去1年以内の生涯学習等の社会参加については、「参加したことがない」が75.9%と7割以上を占め、この割合は前回調査（64.3%）に比べて11.6%上昇している。一方、「参加したことがある」の割合は20.8%と前回調査（31.0%）より10.2%低下しており、「参加したことがない」が「参加したことがある」の割合を大幅に上回っている。

性別にみると、「参加したことがある」の割合は男性で2割台、女性で2割弱と男性の方がやや高くなっている。

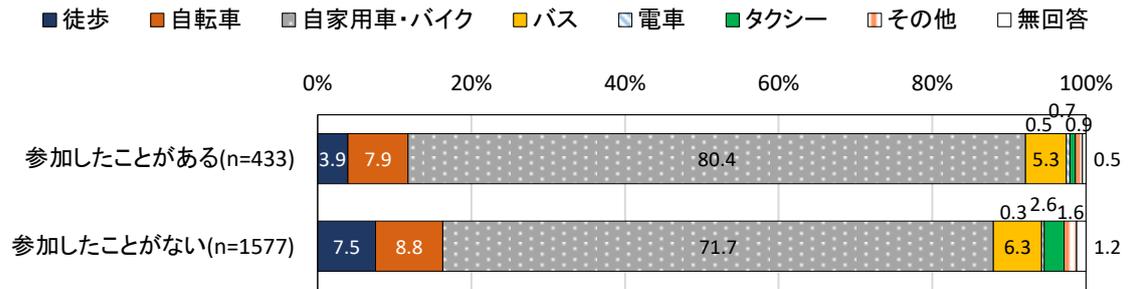
年齢別にみると、「参加したことがある」の割合は65～74歳と75～84歳では2割台ながら、85歳以上などの他の各年代はいずれも1割台となっている。

地域別にみると、「参加したことがある」は河辺地域で3割台と他の地域より高くなっている。



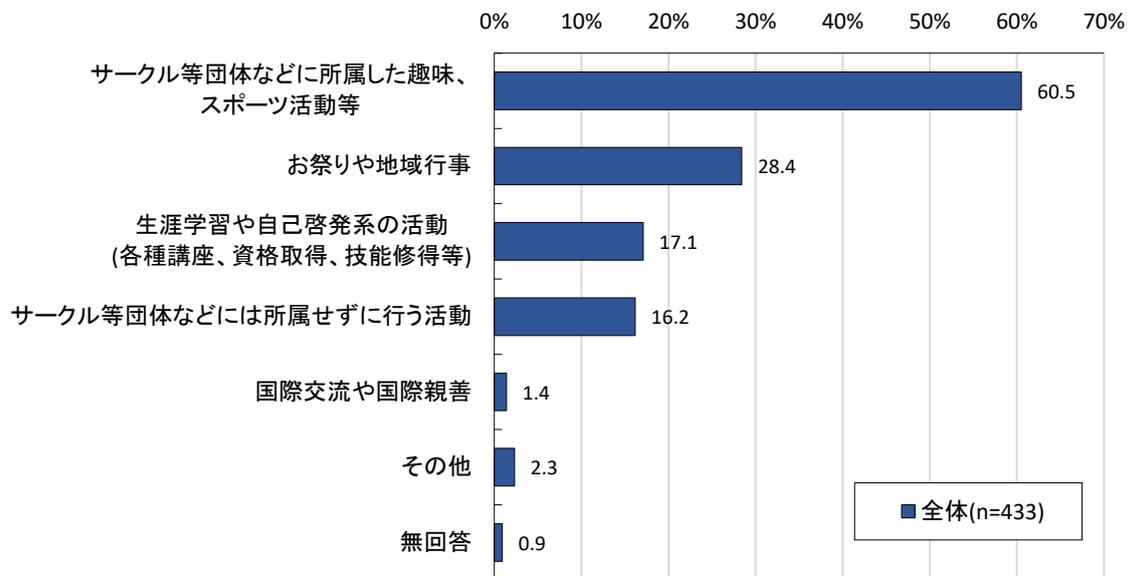
問 33（社会参加の状況） × 問 8（日常生活での主な移動手段）

問 33（社会参加の状況）と問 8（日常生活での主な移動手段）の関連をみると、「自動車・バイク」が社会参加について『参加したことがある』で 80.4%、『参加したことがない』でも 71.7% とともに特に高い割合ながら、この割合は『参加したことがある』の方が高くなっている。その他の項目については、『参加したことがない』で「徒歩」の割合が幾分高くなっているが、参加の有無による大きな違いは見られない。



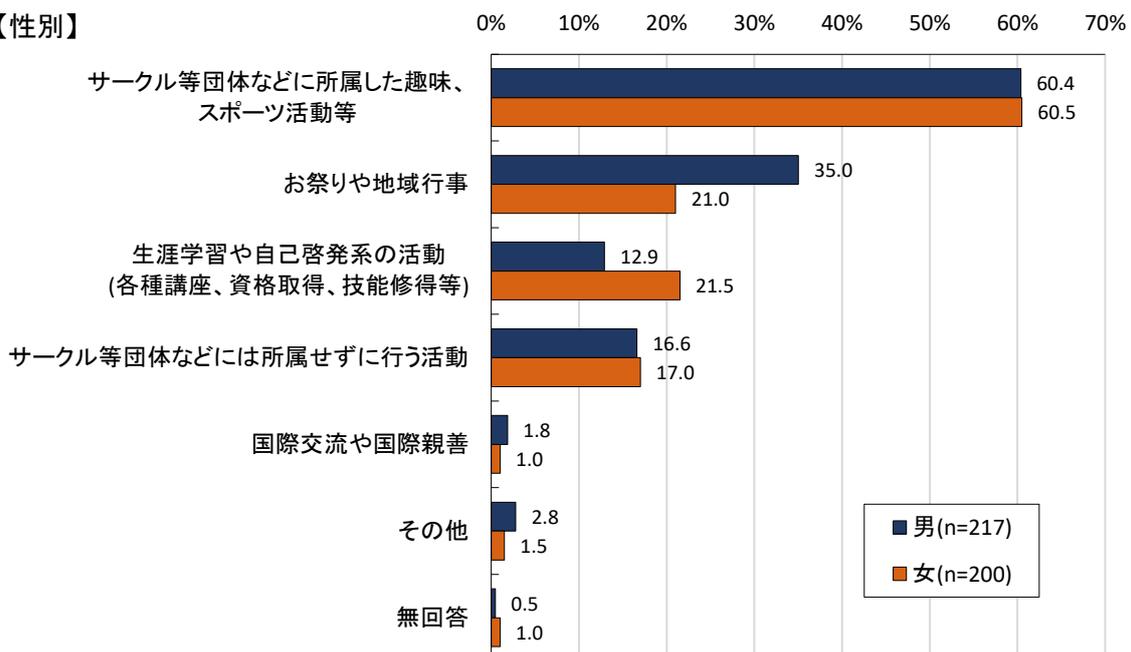
問 34 《問 33 で「1 参加したことがある」を選択した方》参加したことがある活動は何ですか。次の中からあてはまるものすべてを選んで番号に○をつけてください。

参加した活動については、「サークル等団体などに所属した趣味、スポーツ活動等」が 60.5% と最も高く、次いで「お祭りや地域行事」が 28.4% で続き、以下については、「生涯学習や自己啓発系の活動(各種講座、資格取得、技能修得等)」(17.1%)、「サークル等団体などには所属せずに行う活動」(16.2%) などの順となっている。



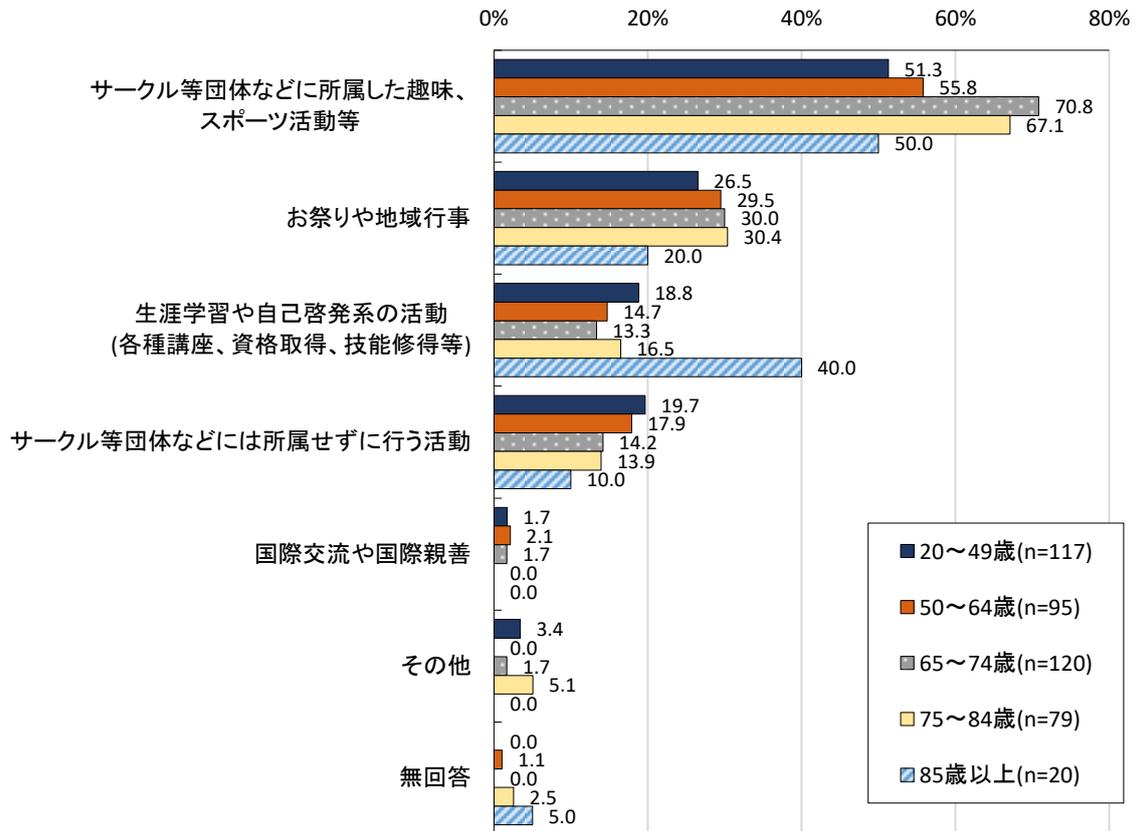
性別にみると、男女とも「サークル等団体などに所属した趣味、スポーツ活動等」がほぼ同様の割合(男性 60.4%、女性 60.5%)で最も高く、以下については、男性は「お祭りや地域行事」(35.0%)、「サークル等団体などには所属せずに行う活動」(16.6%) などの順で、一方、女性では「生涯学習や自己啓発系の活動(各種講座、資格取得、技能修得等)」(21.5%)、「お祭りや地域行事」(21.0%) などの順となり、男女間で順位や割合に違いが見られる。

【性別】



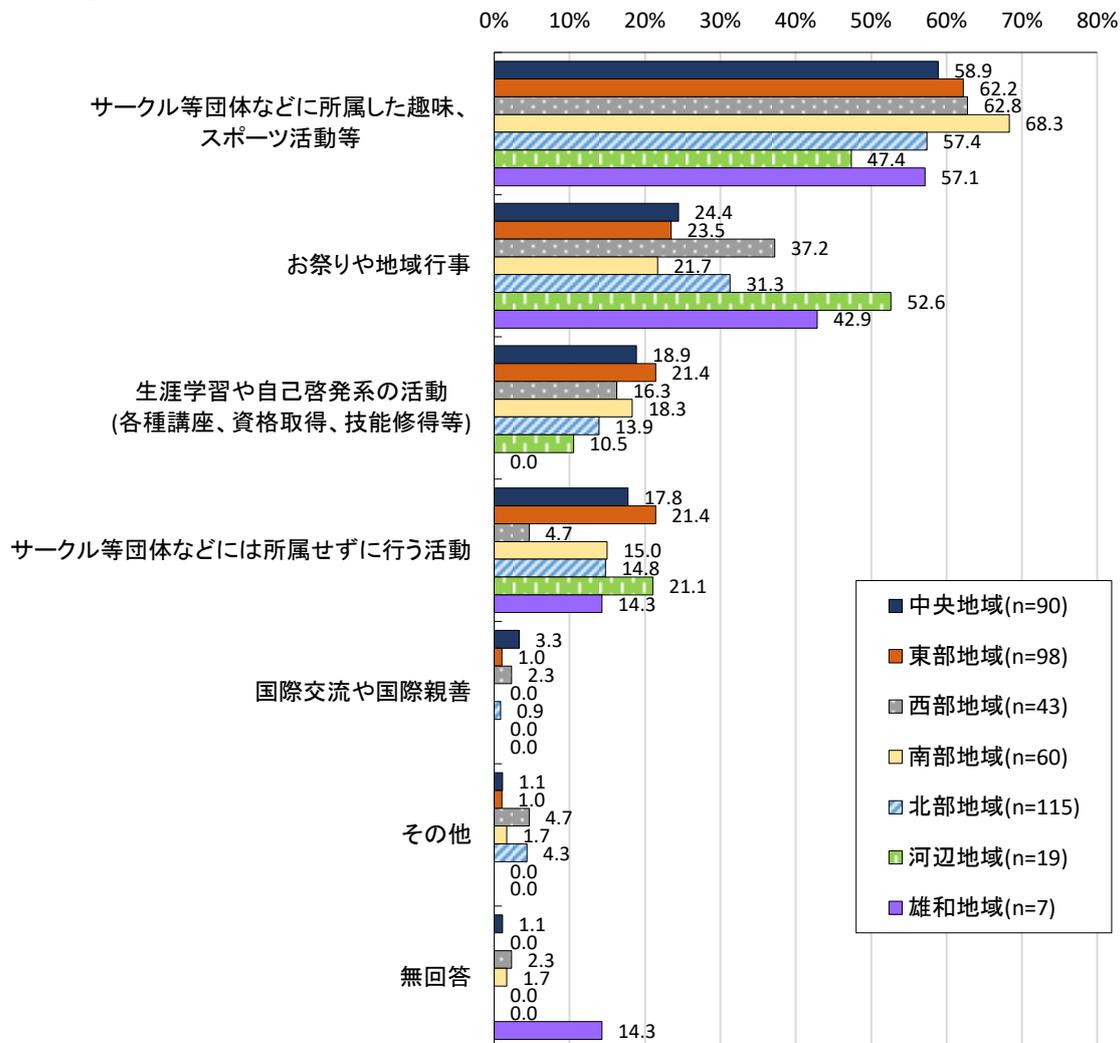
年齢別にみると、65～74歳の70.8%を始めとして、いずれの年代でも「サークル等団体などに所属した趣味、スポーツ活動等」の割合が最も高くなっているが、この割合は65～74歳と75～84歳で7割前後と他の年代に比べて高くなっている。以下については、「お祭りや地域行事」では85歳以上の割合が他の年代に比べて低い一方、「生涯学習や自己啓発系の活動(各種講座、資格取得、技能修得等)」では他の年代より割合が高くなっている。また、「サークル等団体などには所属せずに行う活動」については年齢が上がるにつれて割合が低くなるなど、年代間で割合に違いが見られる。

【年齢別】



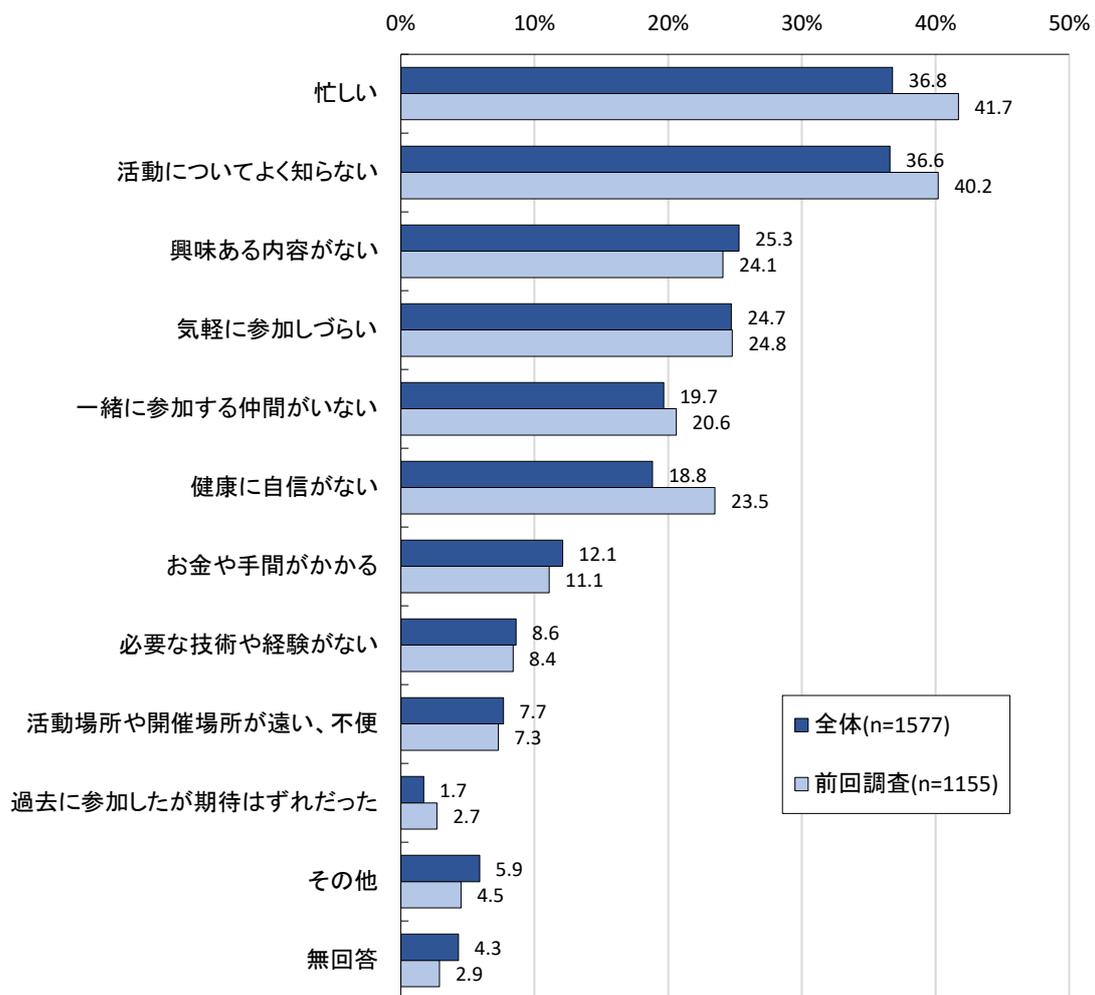
地域別にみると、河辺地域では「お祭りや地域行事」の割合が52.6%で最も高いが、南部地域の68.3%を始めとして、その他の地域ではいずれも「サークル等団体などに所属した趣味、スポーツ活動等」の割合が最も高くなっている。以下については、雄和地域では「生涯学習や自己啓発系の活動(各種講座、資格取得、技能修得等)」の回答が皆無で、西部地域では「サークル等団体などには所属せずに行う活動」が1割未満と他の地域に比べて低い割合となるなど、地域間で割合に違いが見られる。

【地域別】



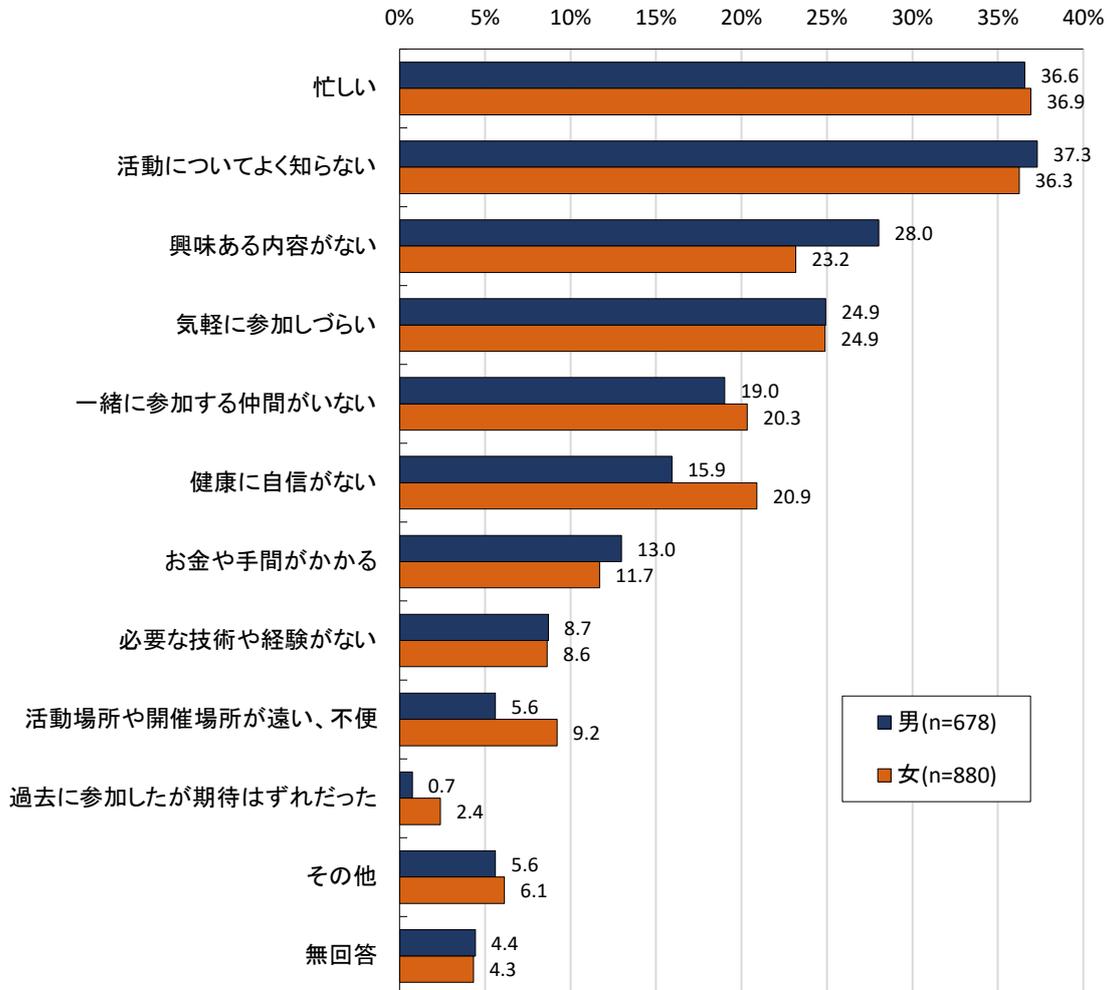
問 35 《問 33 で「2 参加したことがない」を選択した方》参加しなかった理由は何ですか。
次の中からあてはまるものすべてを選んで番号に○をつけてください。

活動に参加しなかった理由については、「忙しい」が 36.8%で最も高く、次いで「活動をよく知らない」が 36.6%とほぼ同様の割合で続いているが、この割合は前回調査に比べてともに低下している。以下については、「興味ある内容がない」(25.3%)、「気軽に参加しづらい」(24.7%)、「一緒に参加する仲間がいない」(19.7%)、「健康に自信がない」(18.8%)などの順となっている。これらの割合を前回調査と比べてみると、「興味がある内容がない」の割合が上昇した一方、「忙しい」などその他の項目の割合はいずれも低下している。



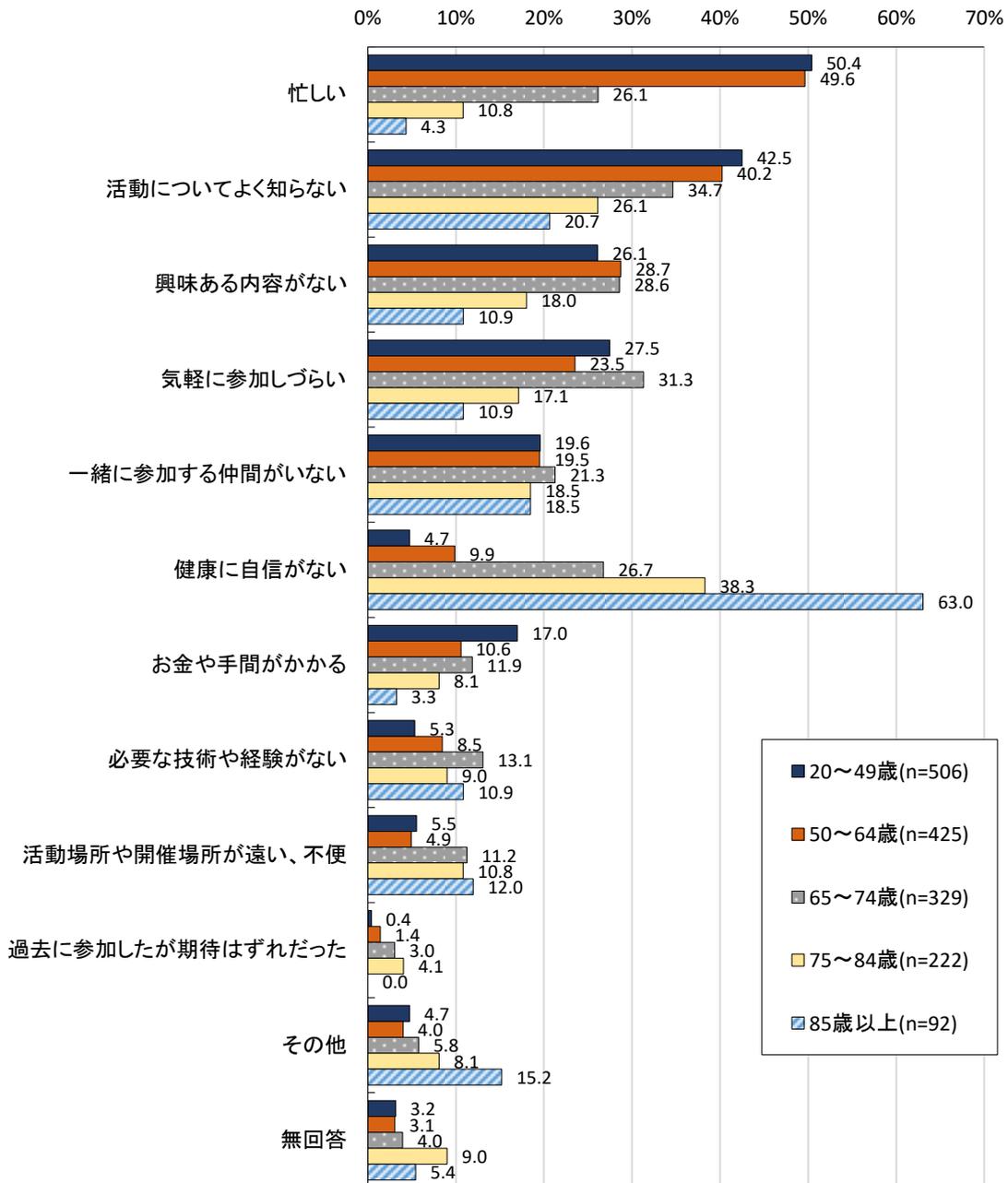
性別にみると、男性は「活動をよく知らない」(37.3%)、「忙しい」(36.6%)、「興味ある内容がない」(28.0%)、「気軽に参加しづらい」(24.9%)、「一緒に参加する仲間がいない」(19.0%)などの順で、一方、女性では「忙しい」(36.9%)、「活動をよく知らない」(36.3%)、「気軽に参加しづらい」(24.9%)、「興味ある内容がない」(23.2%)、「健康に自信がない」(20.9%)などの順となっており、男女間で順位や割合に違いが見られる。

【性別】



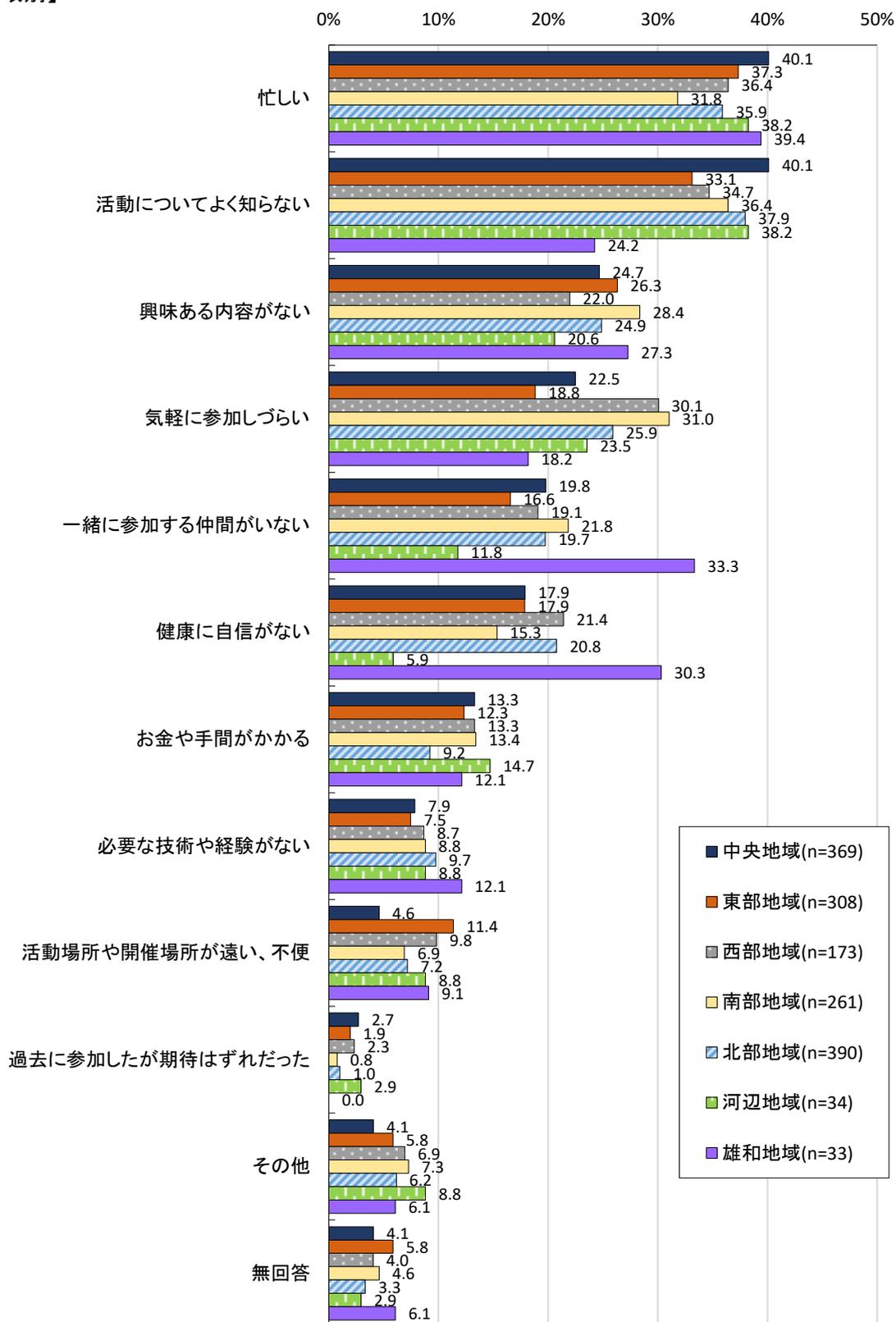
年齢別にみると、「忙しい」と「活動についてよく知らない」では20～49歳と50～64歳の割合が5割前後でともに他の年代より高く、この割合は65～74歳でも比較的高い割合となっている。また、「興味ある内容がない」と「気軽に参加しづらい」は20～74歳までの各年代の割合が他の年代より高く、「一緒に参加する仲間がいない」は各年代でほぼ同様の割合を示しており、「健康に自信がない」は年齢が上がるにつれて大幅に割合が上昇するなど、年代の分布には項目ごとで違いが見られる。

【年齢別】



地域別にみると、「忙しい」では各地域とも3割以上となり、「活動についてよく知らない」でも雄和地域の2割台を除く他の地域では3割以上となっている。「興味ある内容がない」はいずれの地域でも2割台となり、「気軽に参加しづらい」は各地域で2割弱～3割強の割合を示している。また、「一緒に参加する仲間がいない」と「健康に自信がない」は雄和地域で3割台と他の地域に比べて高くなっている。

【地域別】



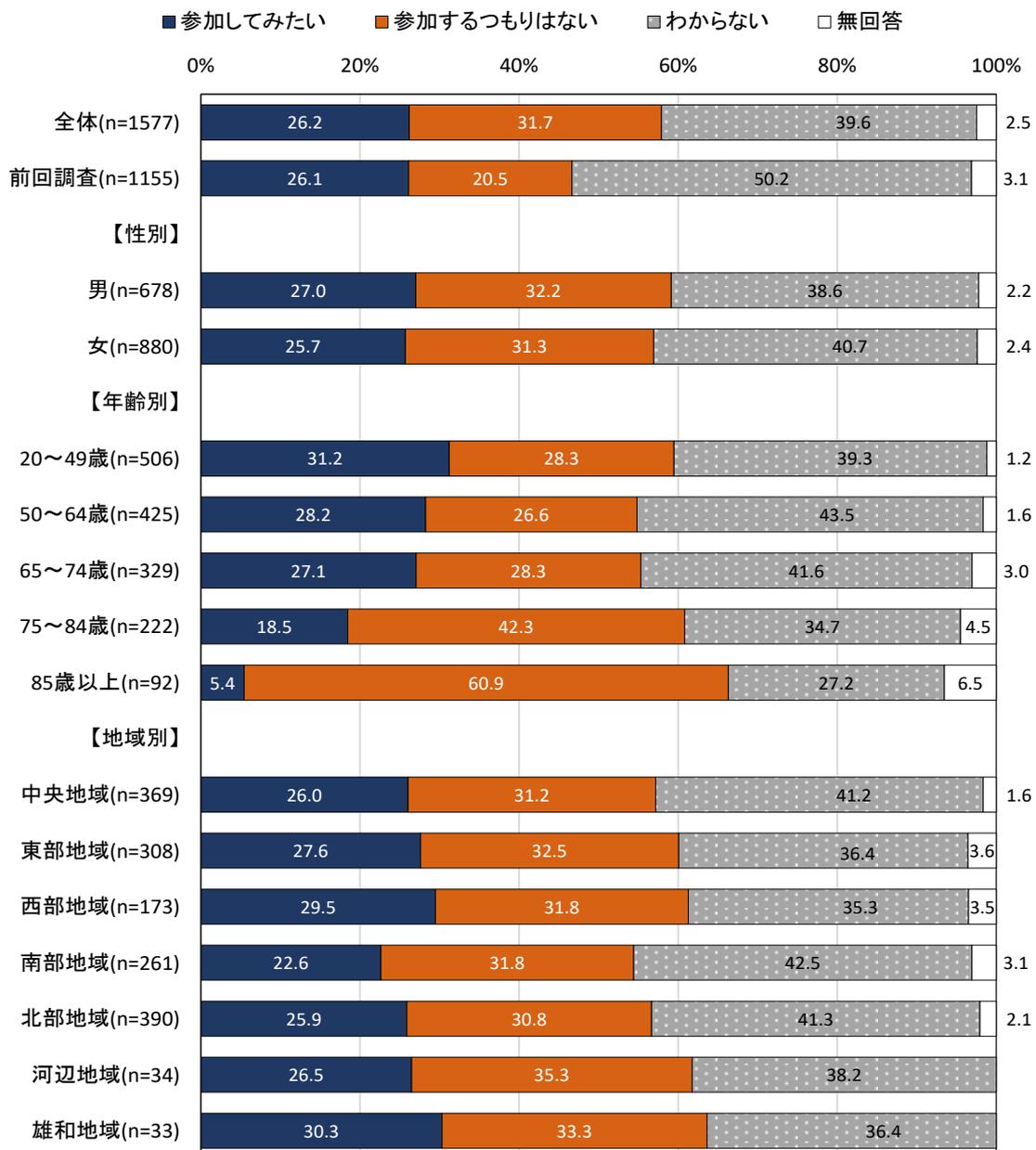
問 36 《問 33 で「2 参加したことがない」を選択した方》今後条件が整えば、個人又は団体等で行うスポーツや生涯学習などに参加したいと思いますか。次の中から1つ選んで番号に○をつけてください。

今後条件が整った場合の生涯学習等の活動への参加については、「わからない」の割合が39.5%で最も高く、これに「参加するつもりはない」(31.7%)と「参加してみたい」(26.2%)が続いている。「参加するつもりはない」の割合が前回調査(20.5%)に比べて11.2%上昇し、「参加してみたい」の割合を上回っている。

性別にみると、男女ともほぼ同様の割合で、「参加するつもりはない」が「参加してみたい」の割合を上回っている。

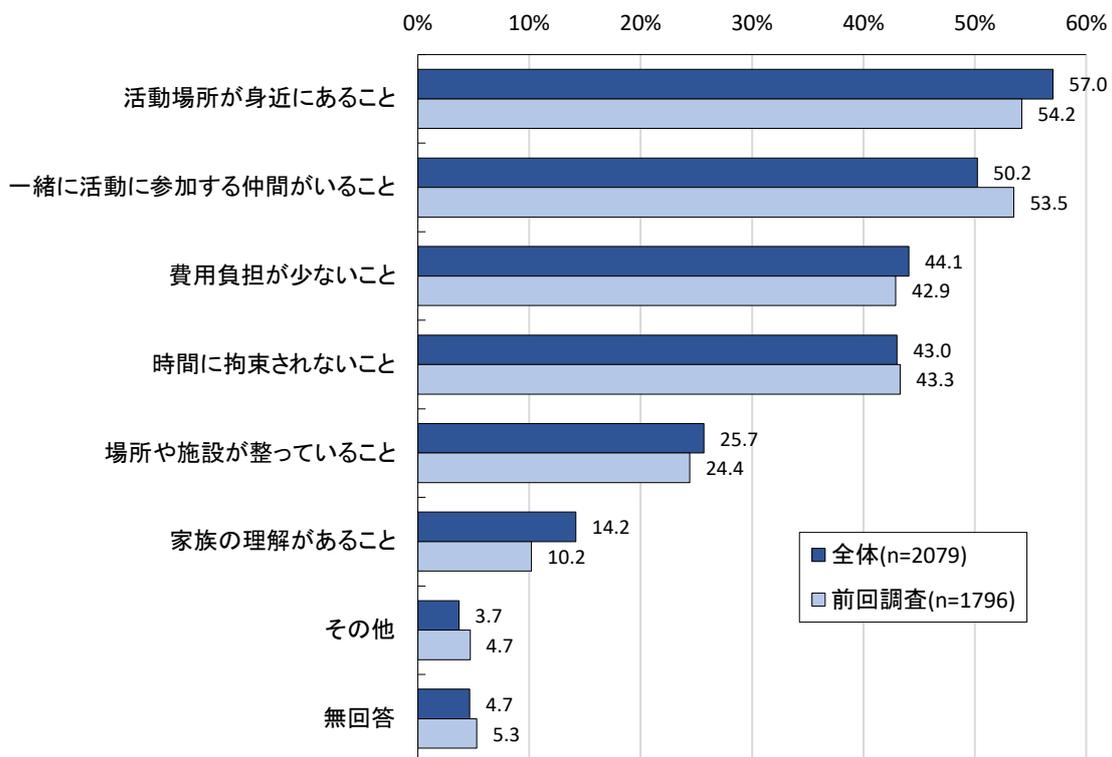
年齢別にみると、64歳までの年代では「参加してみたい」の割合が「参加するつもりはない」より幾分高いが、85歳以上など他の年代では「参加するつもりはない」の方が高くなっている。

地域別にみると、いずれの地域でも「参加するつもりはない」が「参加してみたい」の割合を上回っている。



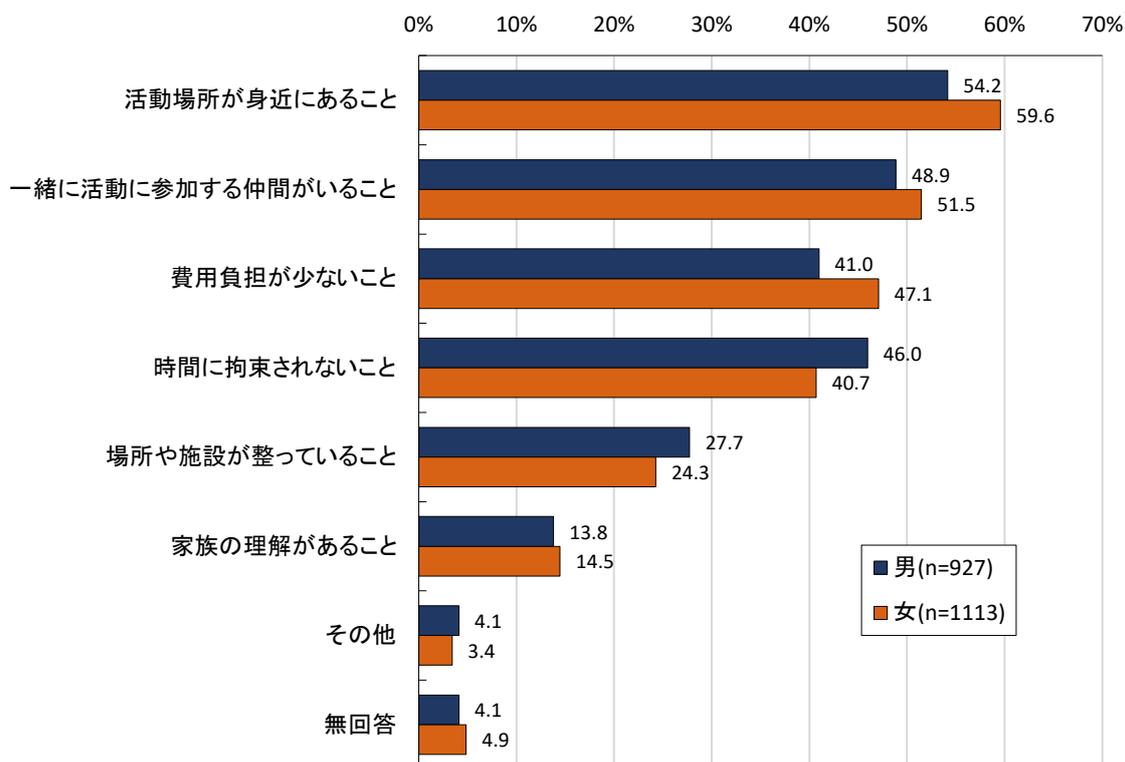
問 37 社会活動に参加するために必要な条件は何だと考えますか。次の中から3つまで選んで番号に○をつけてください。

活動に参加するために必要な条件については、「活動場所が身近にあること」が 57.0%で最も高く、次いで「一緒に活動に参加する仲間がいること」が 50.2%で続き、以下については、「費用負担が少ないこと」(44.1%)、「時間に拘束されないこと」(43.0%)、「場所や施設が整っていること」(25.7%)などの順となっている。これらの割合をみると、前回調査に比べて大きな変化は見られないが、「活動場所が身近にあること」と「費用負担が少ないこと」、「場所や施設が整っていること」の割合が上昇した一方、「一緒に活動に参加する仲間がいること」と「時間に拘束されないこと」の割合は低下している。



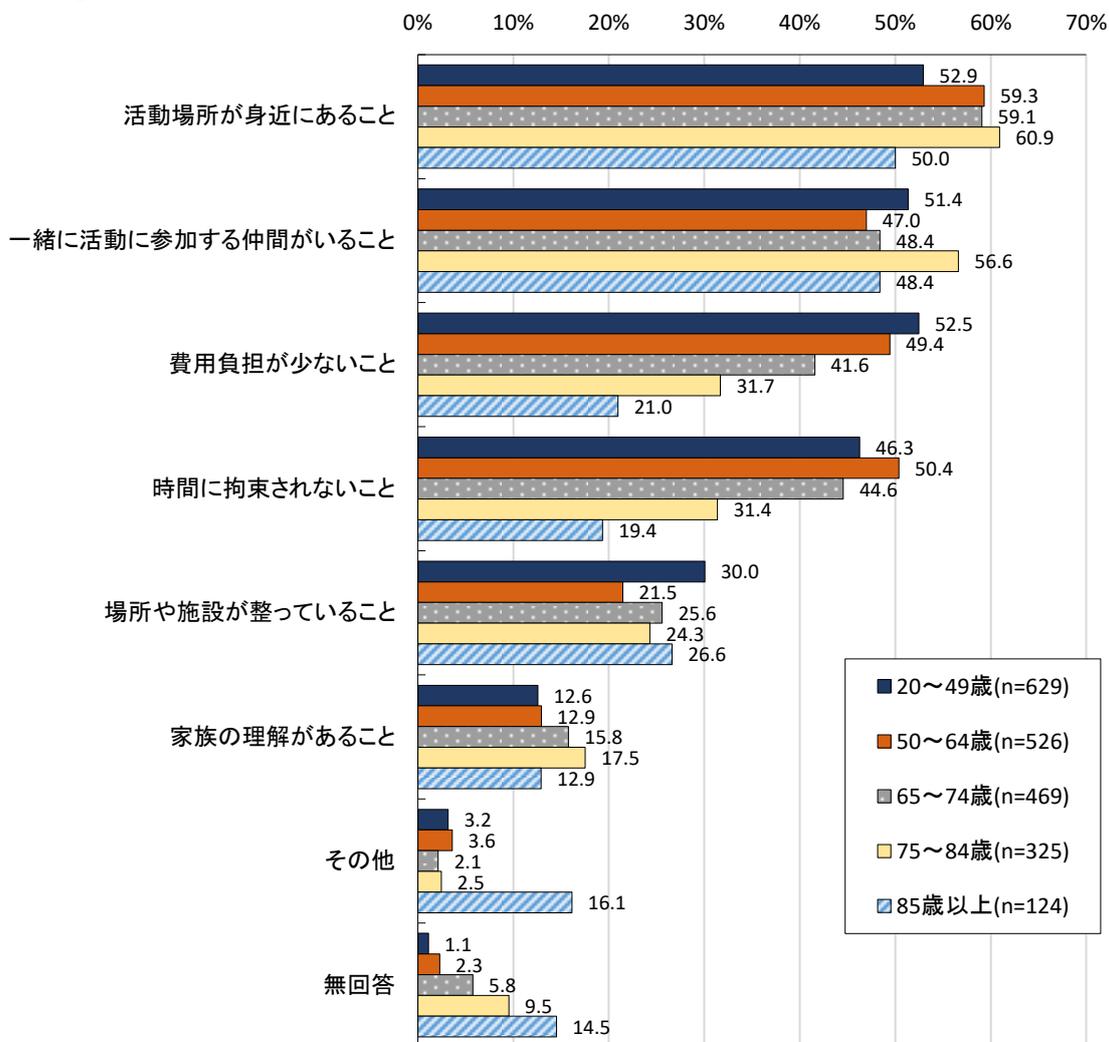
性別にみると、男性は「活動場所が身近にあること」(54.2%)、「一緒に活動に参加する仲間がいること」(48.9%)、「時間に拘束されないこと」(46.0%)、「費用負担が少ないこと」(41.0%)などの順で、一方、女性では「活動場所が身近にあること」(59.6%)、「一緒に活動に参加する仲間がいること」(51.5%)、「費用負担が少ないこと」(47.1%)、「時間に拘束されないこと」(40.7%)などの順となっており、男女の上位2項目までは女性の方の割合が高いなど、男女間で順位や割合には違いが見られる。

【性別】



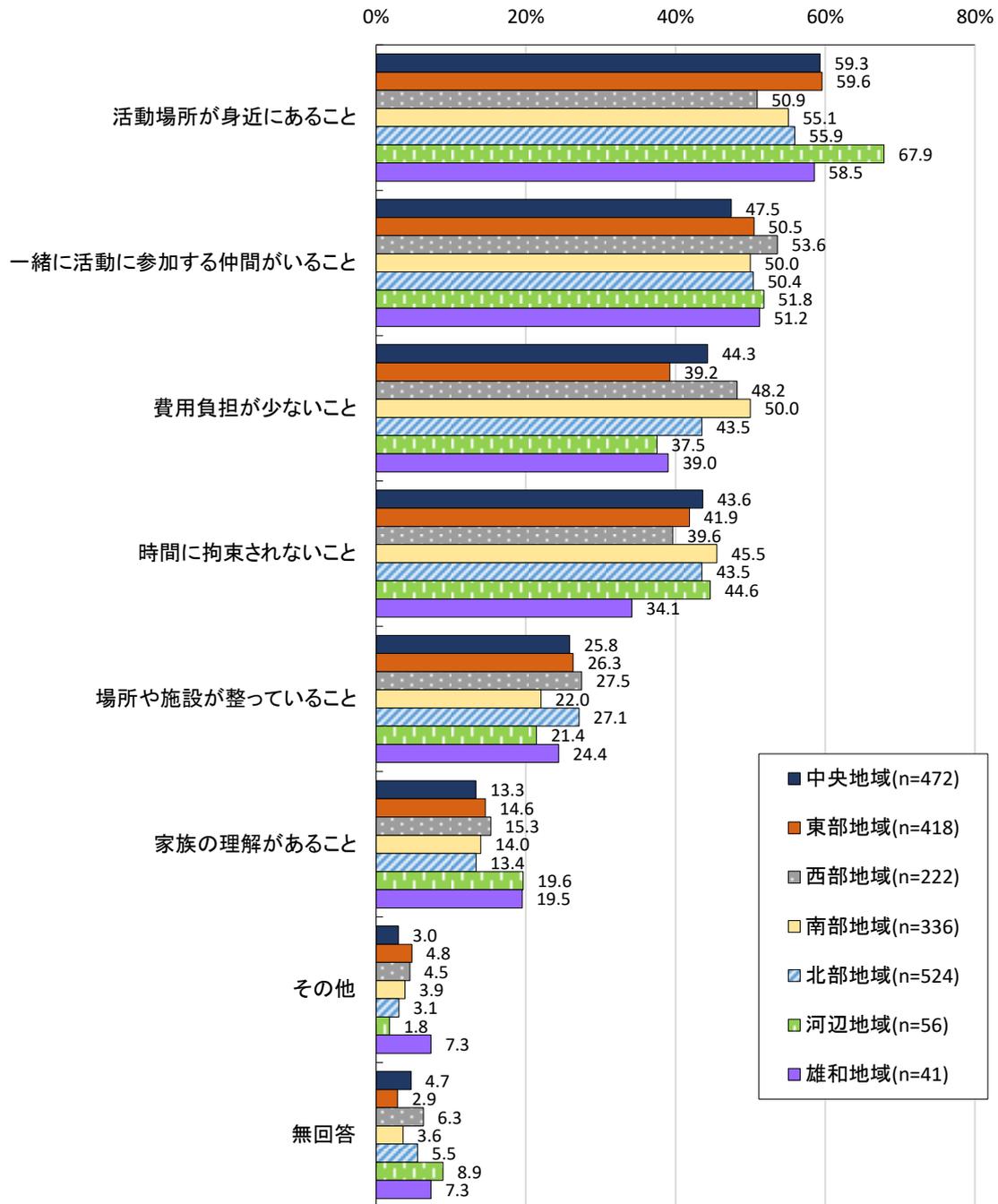
年齢別にみると、「活動場所が身近にあること」はいずれの年代でも5割から6割強と高い割合を占め、「一緒に活動に参加する仲間がいること」でも各年代で5割弱から5割台と高い割合となっている。一方、「費用負担が少ないこと」と「時間に拘束されないこと」については74歳までの各年代で4割以上と割合が高く、75～84歳と85歳以上では割合が低くなるなど、年代による違いが見られる。

【年齢別】



地域別にみると、西部地域を除く各地域では「活動場所が身近にあること」の割合が最も高く、いずれの地域でも5割以上を占め、「一緒に活動に参加する仲間がいること」でも各地域とも5割前後と割合が高くなっている。また、「費用負担が少ないこと」は各地域で4割弱から5割となるなど、全体的としては地域間でそれ程大きな違いは見られない。

【地域別】



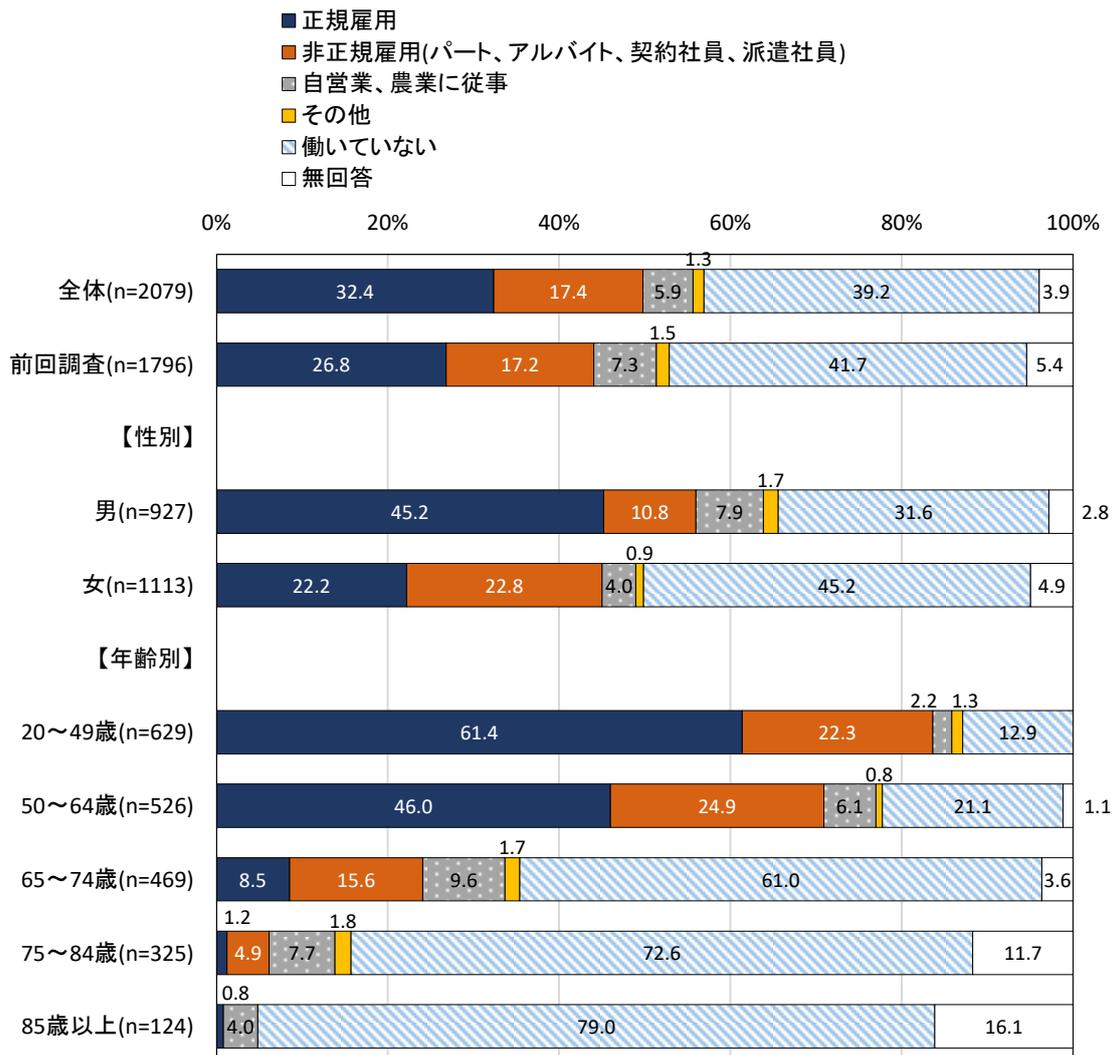
9. 就労について

問 38 あなたの就労状況について、次の中から1つ選んで番号に○をつけてください。

現在の就労状況については、「働いていない」が39.2%と4割近くで最も割合が高く、次いで「正規雇用」が32.4%で続いている。以下については、「非正規雇用(パート、アルバイト、契約社員、派遣社員)」(17.4%)、「自営業、農業に従事」(5.9%)などの順となっている。前回調査に比べて「働いていない」の割合が2.5%低下した一方、「正規雇用」の割合が5.6%上昇するなど、就労状況については幾分変化が見られる。

性別にみると、男性は「正規雇用」(45.2%)、「働いていない」(31.6%)、「非正規雇用(パート、アルバイト、契約社員、派遣社員)」(10.8%)などの順で、一方、女性では「働いていない」(45.2%)、「非正規雇用(パート、アルバイト、契約社員、派遣社員)」(22.8%)、「正規雇用」(22.2%)などの順となり、男女間で順位や割合に違いが見られる。

年齢別にみると、「正規雇用」は20～49歳で61.4%と最も割合が高く、この割合は年齢が上がるにつれて低下しており、「働いていない」は85歳以上で79.0%と最も高い割合を占め、この割合は年齢が上がるにつれて高くなっている。また、「非正規雇用(パート、アルバイト、契約社員、派遣社員)」は50～64歳と20～49歳で2割台と他の年代より割合が高くなっている。



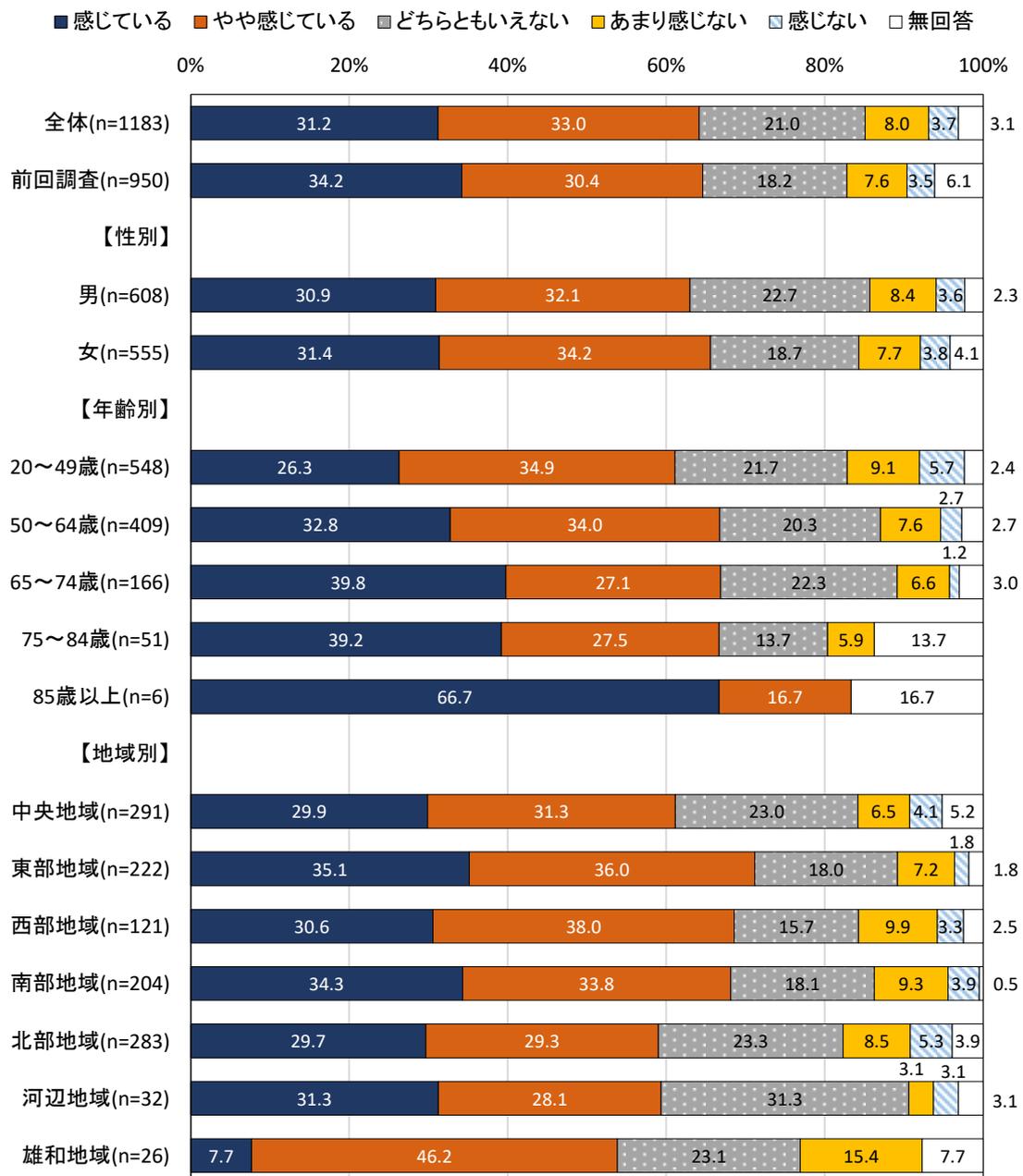
問 39 《問 38 で「1」から「4」を選択した方》あなたは仕事にやりがいを感じていますか。
次の中から1つ選んで番号に○をつけてください。

仕事のやりがいについては、「感じている」(31.2%)と「やや感じている」(33.0%)を合わせた“感じている”(以下も同じ)の割合が64.2%と前回調査(64.6%)とほぼ同様の割合で、一方、「感じなかった」(3.7%)と「あまり感じなかった」(8.0%)を合わせた“感じない”(以下も同じ)の割合は11.7%で、“感じている”が“感じない”の割合を大幅に上回っている。

性別にみると、男女ともほぼ同様の割合で、“感じている”が“感じない”の割合を大幅に上回っている。

年齢別にみると、“感じている”が85歳以上の8割台を始めとして、他の各年代も6割台を占めており、いずれの年代でも“感じない”の割合を大きく上回っている。

地域別にみると、東部地域の7割台を始めとして、各地域において“感じている”が5割以上を占め、“感じない”の割合を大幅に上回っている。

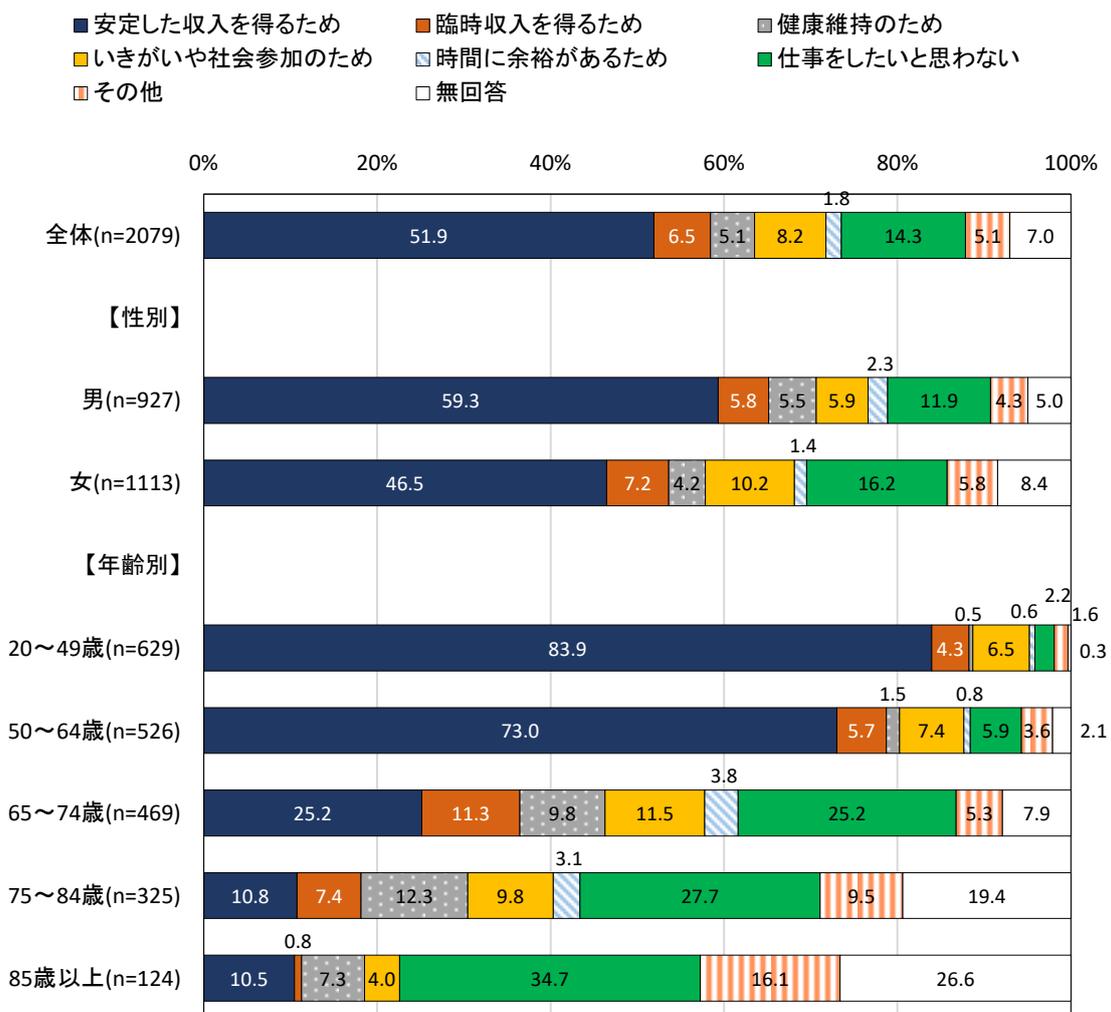


問 40 仕事をする（仕事をしたい）理由は何ですか。次の中から1つ選んで番号に○をつけてください。

仕事をする（仕事をしたい）理由については、「安定した収入を得るため」が51.9%と半数以上を占めて最も割合が高く、次いで「仕事をしたいとは思わない」が14.3%と1割台で続き、以下については、「いきがいや社会参加のため」（8.2%）、「臨時収入を得るため」（6.5%）などの順となっている。

性別にみると、男女とも「安定した収入を得るため」の割合（男性59.3%、女性46.5%）が最も高く、これに「仕事をしたいとは思わない」（男性11.9%、女性16.2%）と「いきがいや社会参加のため」（男性5.9%、女性10.2%）が続いているが、その割合については男女間で違いが見られる。

年齢別にみると、「安定した収入を得るため」は20～49歳で83.9%と最も高い割合を占め、この割合は年齢が上がるにつれて低下しており、「仕事をしたいとは思わない」は85歳以上で34.7%と最も割合が高く、この割合は年齢が上がるにつれて高くなっている。また、「いきがいや社会参加のため」と「臨時収入を得るため」は65～74歳でともに1割強ながら、他の年代より幾分割合が高くなっている。

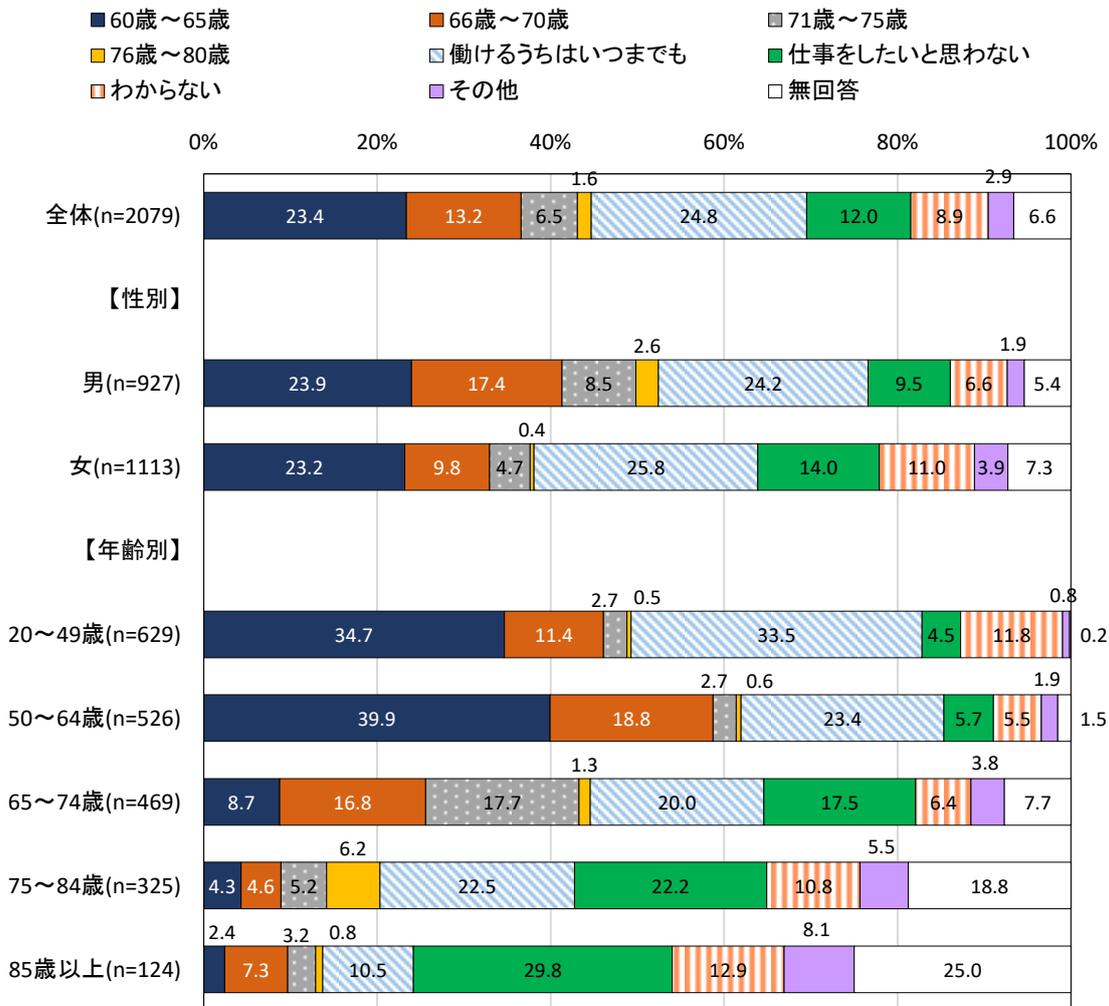


問 41 あなたは何歳まで収入を伴う仕事をしたいですか。次の中から1つ選んで番号に○をつけてください。

何歳まで仕事をしたいかについては、「働けるうちはいつまでも」の割合が24.8%で最も高く、次いで「60歳～65歳」が23.4%とほぼ同様の割合で続き、以下については、「66歳～70歳」(13.2%)、「仕事をしたいと思わない」(12.0%)などの順となっている。

性別にみると、男女とも「働けるうちはいつまでも」の割合(男性24.2%、女性25.8%)が最も高く、次いで「60歳～65歳」(男性23.9%、女性23.2%)が続き、ほぼ同様の割合を示しているが、以下については、男性が「66歳～70歳」(17.4%)、「仕事をしたいと思わない」(9.5%)などの順で、女性では「仕事をしたいと思わない」(14.0%)、「わからない」(11.0%)の順となるなど、男女間で順位や割合に幾分違いが見られる。

年齢別にみると、20～49歳と50～64歳では「60歳～65歳」の割合が最も高く、次いで「働けるうちはいつまでも」が続いているが、65歳～74歳と75歳～84歳では「働けるうちはいつまでも」の割合が最も高く、85歳以上では「仕事をしたいと思わない」の割合が最も高いなど、年代間で順位や割合に違いが見られる。

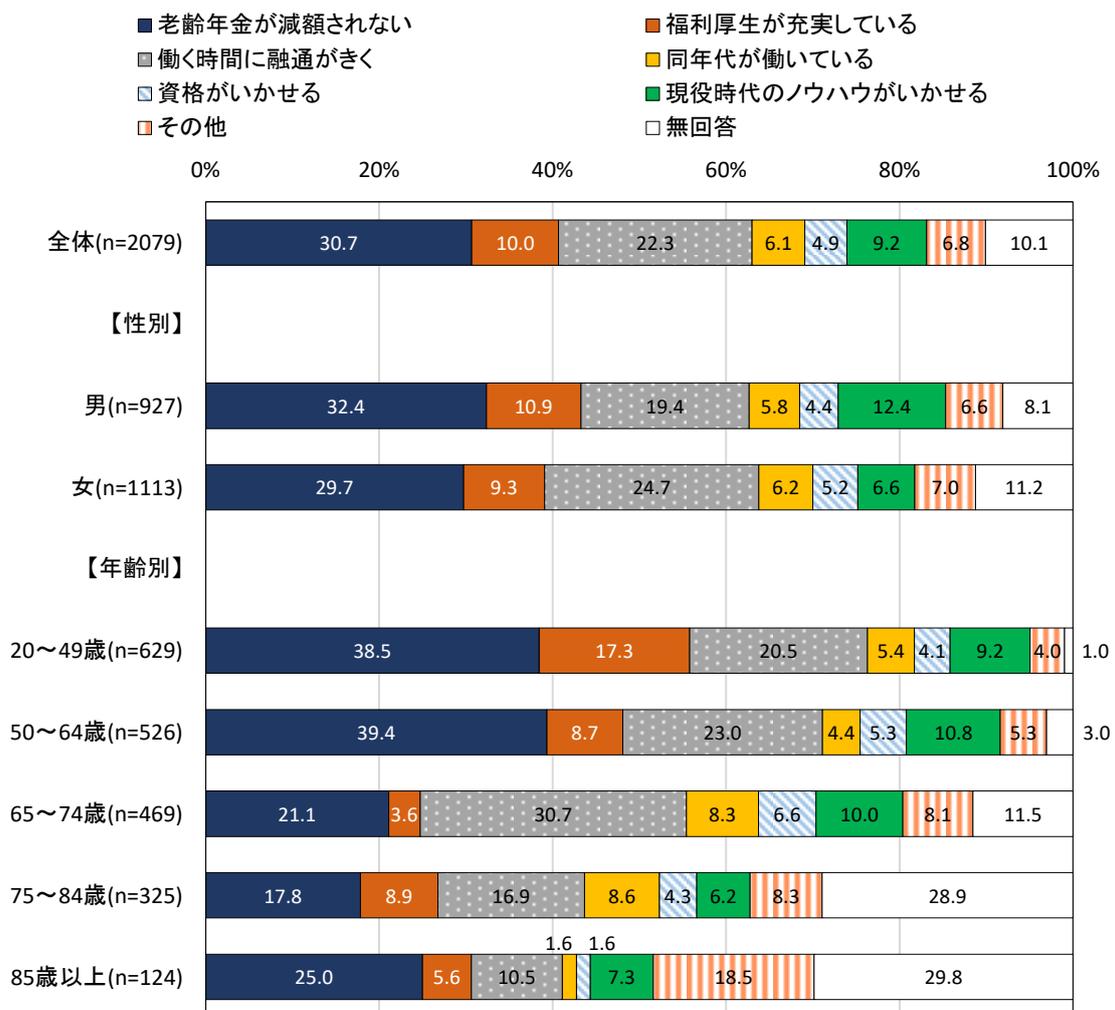


問 42 あなたが、高齢期に仕事を続けていくうえで、重要だと思う条件は何ですか。次の中から1つ選んで番号に○をつけてください。

高齢期に仕事を続けていくうえで重要な条件については、「老齢年金が減額されない」が30.7%で最も割合が高く、次いで「働く時間に融通がきく」が22.3%で続き、以下については、「福利厚生が充実している」(10.0%)、「現役時代のノウハウがいかせる」(9.2%)などの順となっている。

性別にみると、男女とも「老齢年金が減額されない」の割合(男性32.4%、女性29.7%)が最も高く、次いで「働く時間に融通がきく」(男性19.4%、女性24.7%)が続き、以下については、男性は「現役時代のノウハウがいかせる」(12.4%)、女性では「福利厚生が充実している」(9.3%)が続くなど、男女間で順位や割合に幾分違いが見られる。

年齢別にみると、「老齢年金が減額されない」の割合は20～49歳と50～64歳で4割近くと最も割合が高く、75～84歳と85歳以上でも最も割合が高くなっている(無回答を除く)。一方、65～74歳では「働く時間に融通がきく」が3割強と最も割合が高く、20～49歳では「福利厚生が充実している」が1割台ながら他の年代より高い割合となるなど、年代間で順位や割合に違いが見られる。



10. 新型コロナウイルス感染症の影響について

問 43 新型コロナウイルス感染症の流行に関連して、新型コロナウイルス感染症流行（本年4月7日を基点）の前後で比べた外出や交流頻度についてお伺いします。

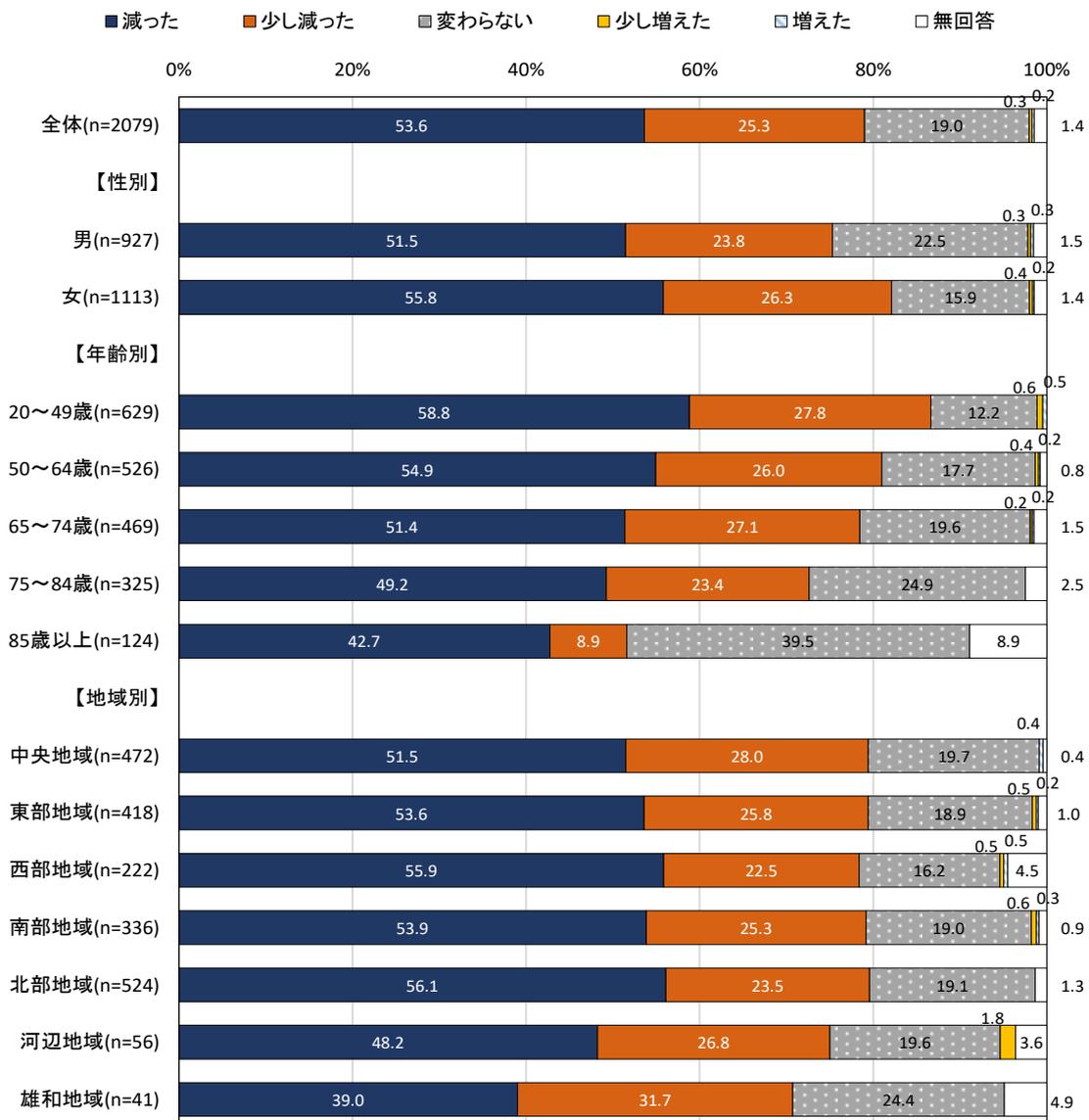
（1）あなたの、外出頻度はどのように変化しましたか。次の中から1つ選んで番号に○をつけてください。

新型コロナウイルス感染症流行前後の外出頻度については、「減った」が53.6%と5割以上を占めて最も高く、これに「少し減った」(25.3%)を加えた“減った”（以下も同じ）の割合は78.9%となっている。一方、「増えた」(0.2%)と「少し増えた」(0.3%)を合わせた“増えた”の割合は0.5%と低く、外出頻度の大幅な減少を裏付ける結果となっている。

性別にみると、“減った”の割合は男性で75.3%、女性で82.1%とともに高い割合ながら、この割合は女性の方が高くなっている。

年齢別にみると、“減った”の割合は20～49歳の86.8%を始めとして、いずれの年代でも5割以上と高い割合となっているが、この割合は年齢が上がるにつれて低下している。

地域別にみると、“減った”の割合はいずれの地域でも7割台と高い割合となっている。



問 43 新型コロナウイルス感染症の流行に関連して、新型コロナウイルス感染症流行（本年4月7日を基点）の前後で比べた外出や交流頻度についてお伺いします。

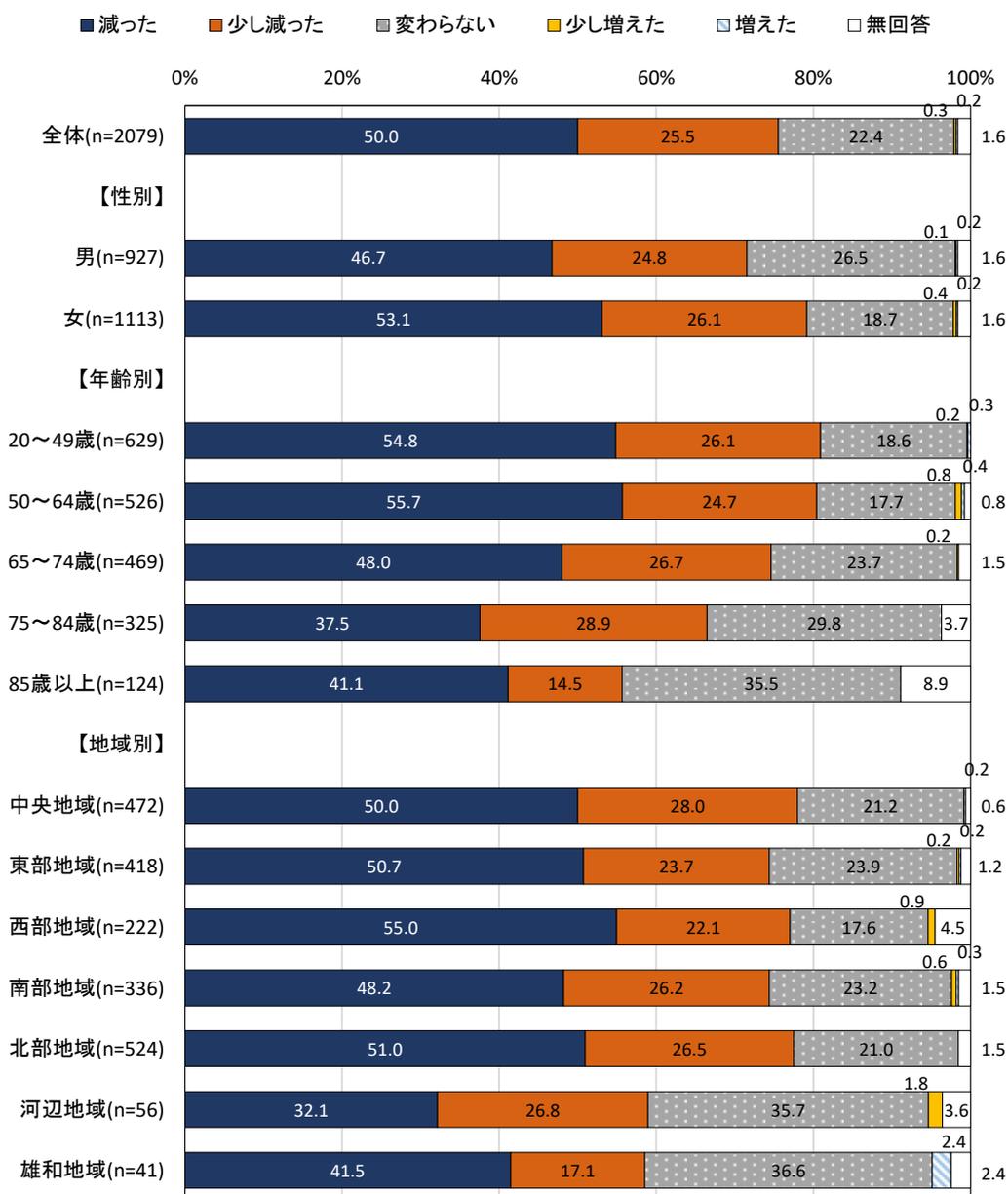
（2）あなたの、家族以外の方と交流する頻度はどのように変化しましたか。次の中から1つ選んで番号に○をつけてください。

新型コロナウイルス感染症流行前後の家族以外との交流頻度については、「減った」が50.0%と半数を占めて最も高く、これに「少し減った」(25.5%)を加えた“減った”(以下も同じ)の割合は75.5%となっている。一方、「増えた」(0.2%)と「少し増えた」(0.3%)を合わせた“増えた”の割合は0.5%と低く、交流頻度の大幅な減少を裏付ける結果となっている。

性別にみると、“減った”の割合は男性で71.5%、女性で79.2%とともに7割台と高い割合ながら、この割合は女性の方が高くなっている。

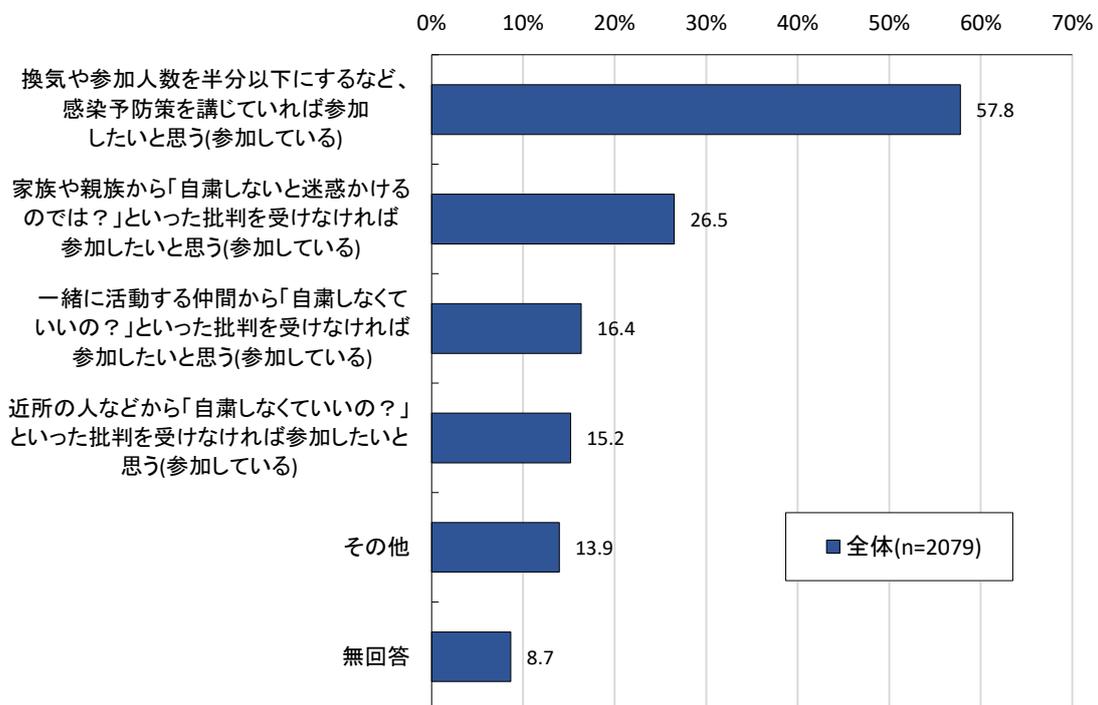
年齢別にみると、“減った”の割合は20～49歳の80.9%を始めとして、いずれの年代でも5割以上と高い割合となっているが、この割合は年齢が上がるにつれて低下している。

地域別にみると、“減った”の割合は雄和地域と河辺地域で5割台ながら、その他の5地域では7割台となり、いずれの地域でも高い割合となっている。



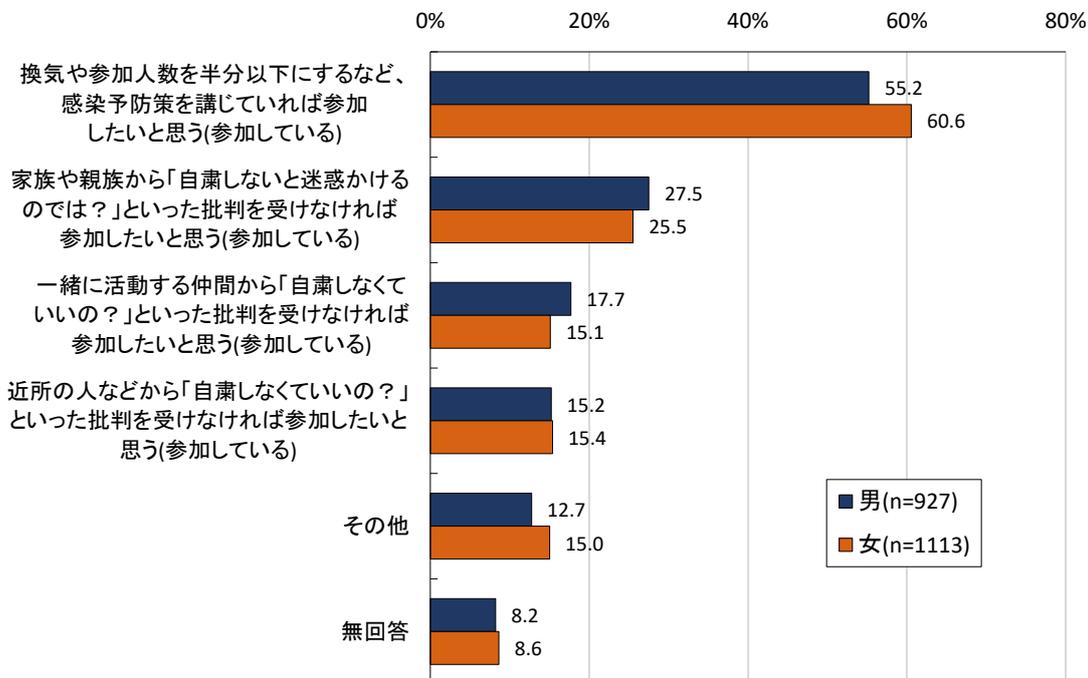
問 44 新型コロナウイルス感染症の流行により、緊急事態宣言の解除後も、新たな生活様式が求められています。あなたが、新型コロナウイルス感染症の流行前に行っていた、趣味、社会参加、地域活動、仕事などを新たな生活様式の中で行うにあたり、どんな条件が整えば参加できると思いますか。次の中からあてはまるものすべてを選んで番号に○をつけてください。

新型コロナ禍での趣味や地域活動等への参加の条件については、「感染予防策を講じていれば参加したいと思う」の割合が57.8%と5割以上を占めて最も高く、次いで「家族や親族から批判を受けなければ参加したいと思う」が26.5%で続き、以下については、「一緒に活動する仲間から批判を受けなければ参加したいと思う」(16.4%)、「近所の人などから批判を受けなければ参加したいと思う」(15.2%)などの順となっている。



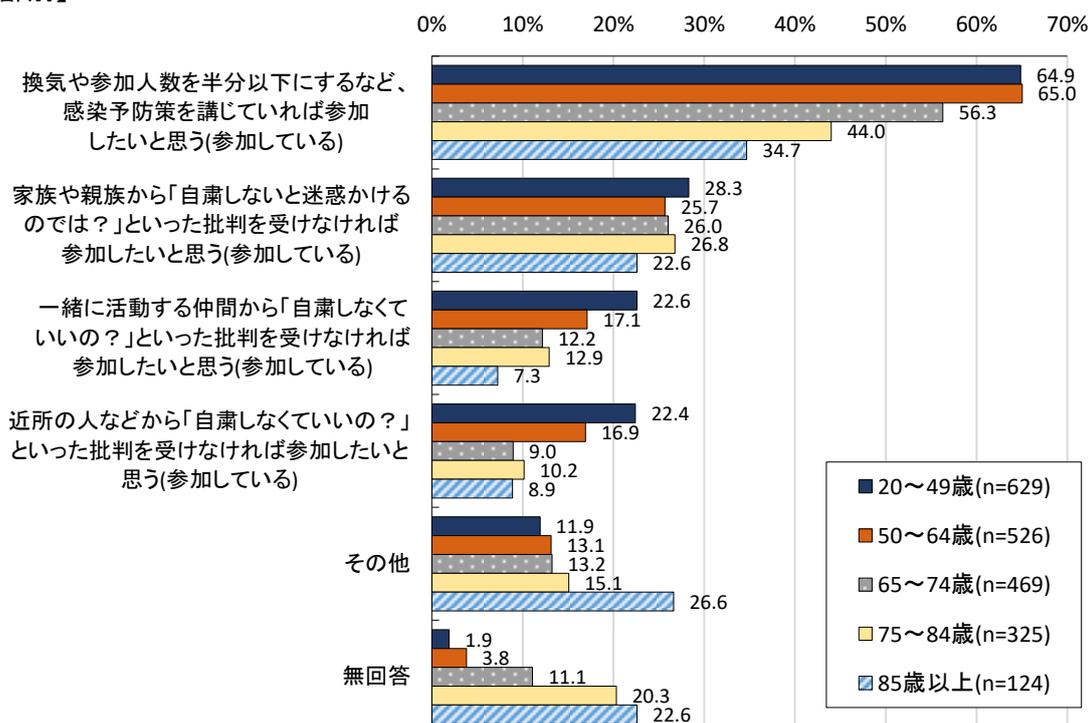
性別にみると、男女とも「感染予防策を講じていれば参加したいと思う」（男性 55.2%、女性 60.6%）の割合が最も高く、次いで「家族や親族から批判を受けなければ参加したいと思う」（男性 27.5%、女性 25.5%）が続いているが、男女間で順位や割合には幾分違いが見られる。

【性別】



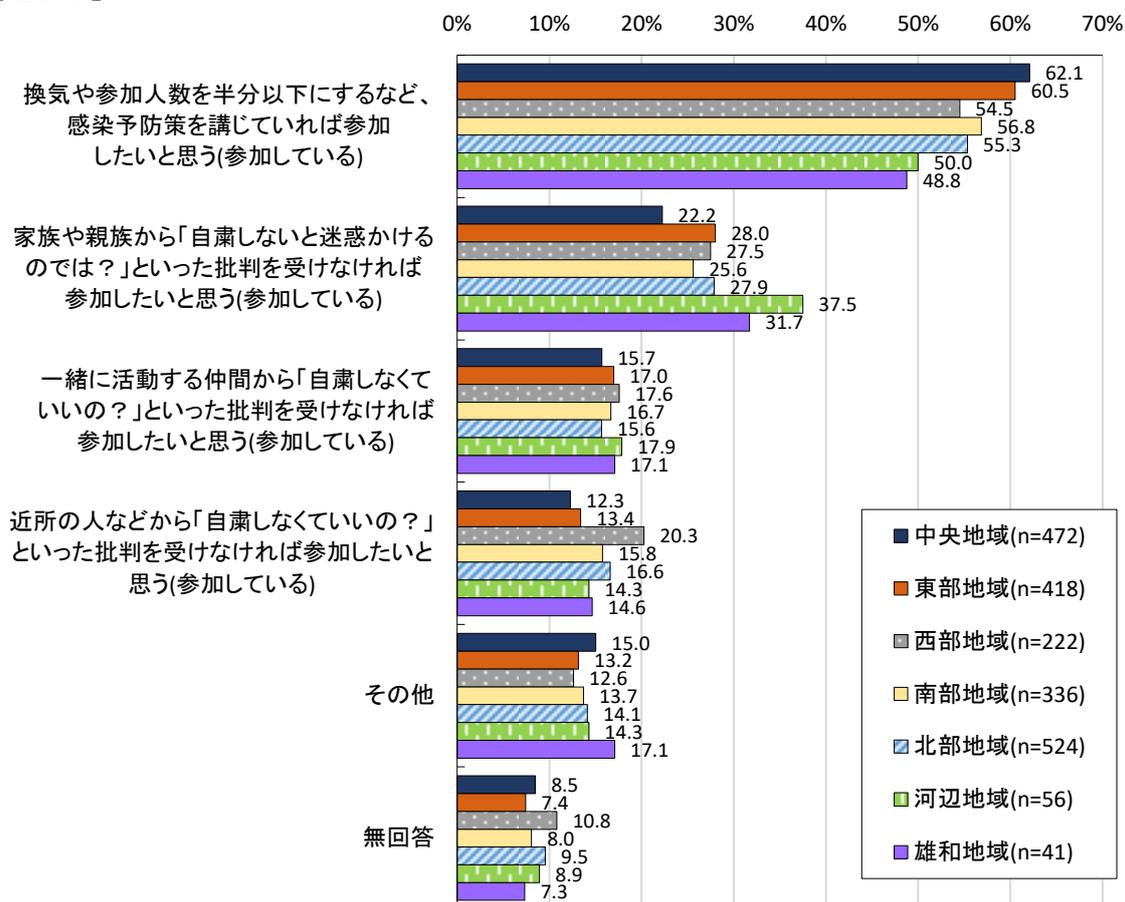
年齢別にみると、「感染予防策を講じていれば参加したいと思う」がいずれの年代でも最も割合が高く、次いで「家族や親族から批判を受けなければ参加したいと思う」が続いているが、他の年代に比べて 20～49 歳と 50～64 歳の割合が高い項目が多くなっている。

【年齢別】



地域別にみると、いずれの地域でも「感染予防策を講じていれば参加したいと思う」の割合が最も高く、次いで「家族や親族から批判を受けなければ参加したいと思う」が続いているが、中央地域と東部地域では「感染予防策を講じていれば参加したいと思う」が6割強と他の地域より幾分割合が高く、河辺地域と雄和地域では「家族や親族から批判を受けなければ参加したいと思う」の割合が3割台と他の地域より高いなど、地域間で割合にはやや違いが見られる。

【地域別】



11. 暮らしについて

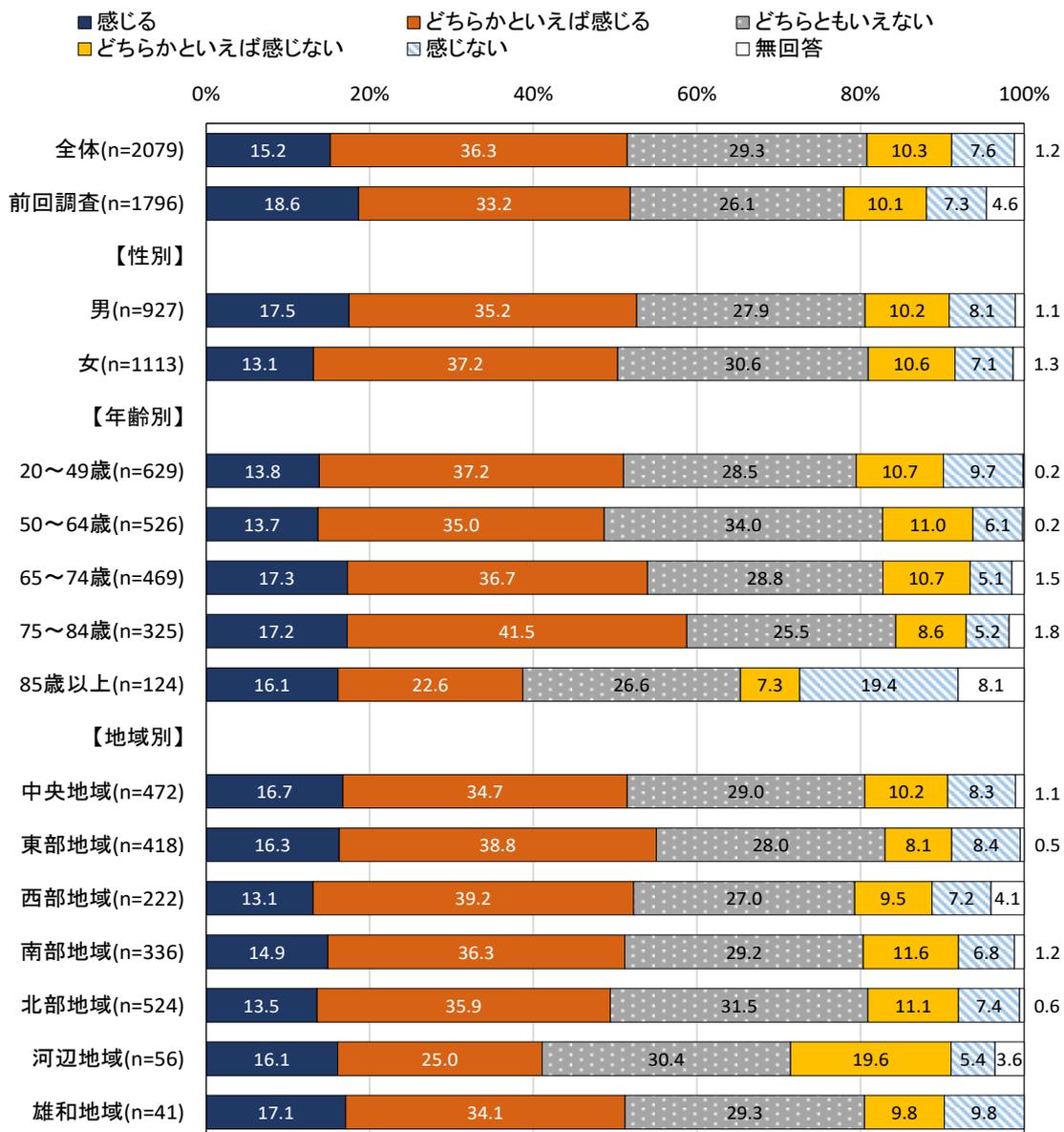
問 45 あなたは、生きがいをもっていきいきと自分らしく暮らしていると感じますか。次の中から1つ選んで番号に○をつけてください。

生きがいをもって暮らしていると感じるかについては、「感じる」(15.2%)と「どちらかといえば感じる」(36.3%)を合わせた“感じる”(以下も同じ)の割合が51.5%と前回調査(51.8%)とほぼ同様の割合ながら、うち「感じる」(15.2%)の割合は前回調査(18.6%)より低下している。一方、「感じない」(7.6%)と「どちらかといえば感じない」(10.3%)を合わせた“感じない”(以下も同じ)の割合は17.9%で、“感じる”が“感じない”の割合を上回っている。

性別にみると、男女ともほぼ同様の割合で、“感じる”が“感じない”の割合を上回っている。

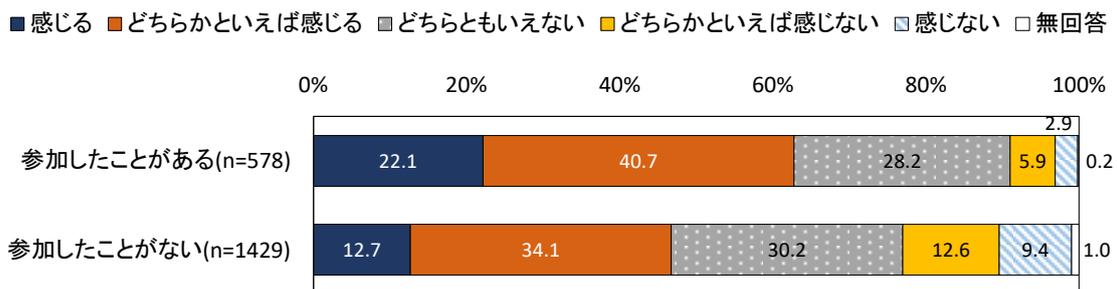
年齢別にみると、“感じる”が75～84歳の6割近くを始めとして、他の各年代も4割近くから5割台となっており、いずれの年代でも“感じない”の割合を上回っているが、85歳以上では“感じない”の割合が2割台と他の年代より高くなっている。

地域別にみると、各地域とも“感じる”が“感じない”の割合を上回っているが、河辺地域では、他の地域より”感じる”の割合が低い一方、”感じない”の割合が高くなっている。



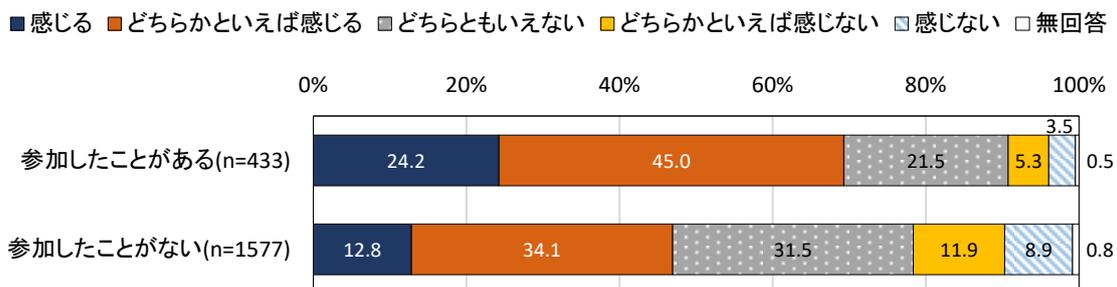
問 29 (地域活動への参加状況) × 問 45 (生きがいをもって暮らしていると感じるか)

問 29 (地域活動への参加状況) と問 45 (生きがいをもって暮らしていると感じるか) の関連をみると、生きがいを「感じる」と「どちらかといえば感じる」を合わせた“感じる”の割合は、地域活動に『参加したことがある』では 62.8% と 6 割以上を占め、『参加したことがない』では 46.8% と 4 割台となっている。一方、生きがいを「感じない」と「どちらかといえば感じない」を合わせた“感じない”割合は、『参加したことがある』では 8.8%、『参加したことがない』では 22.0% となっており、地域活動に参加したことがある方がより生きがいを感じて暮らしている。



問 33 (社会参加の状況) × 問 45 (生きがいをもって暮らしていると感じるか)

問 33 (社会参加の状況) と問 45 (生きがいをもって暮らしていると感じるか) の関連をみると、生きがいを「感じる」と「どちらかといえば感じる」を合わせた“感じる”の割合は、社会参加について『参加したことがある』は 69.2% と 7 割近くを占め、『参加したことがない』では 46.9% となっており、社会参加したことがある方がより生きがいを感じて暮らしている。



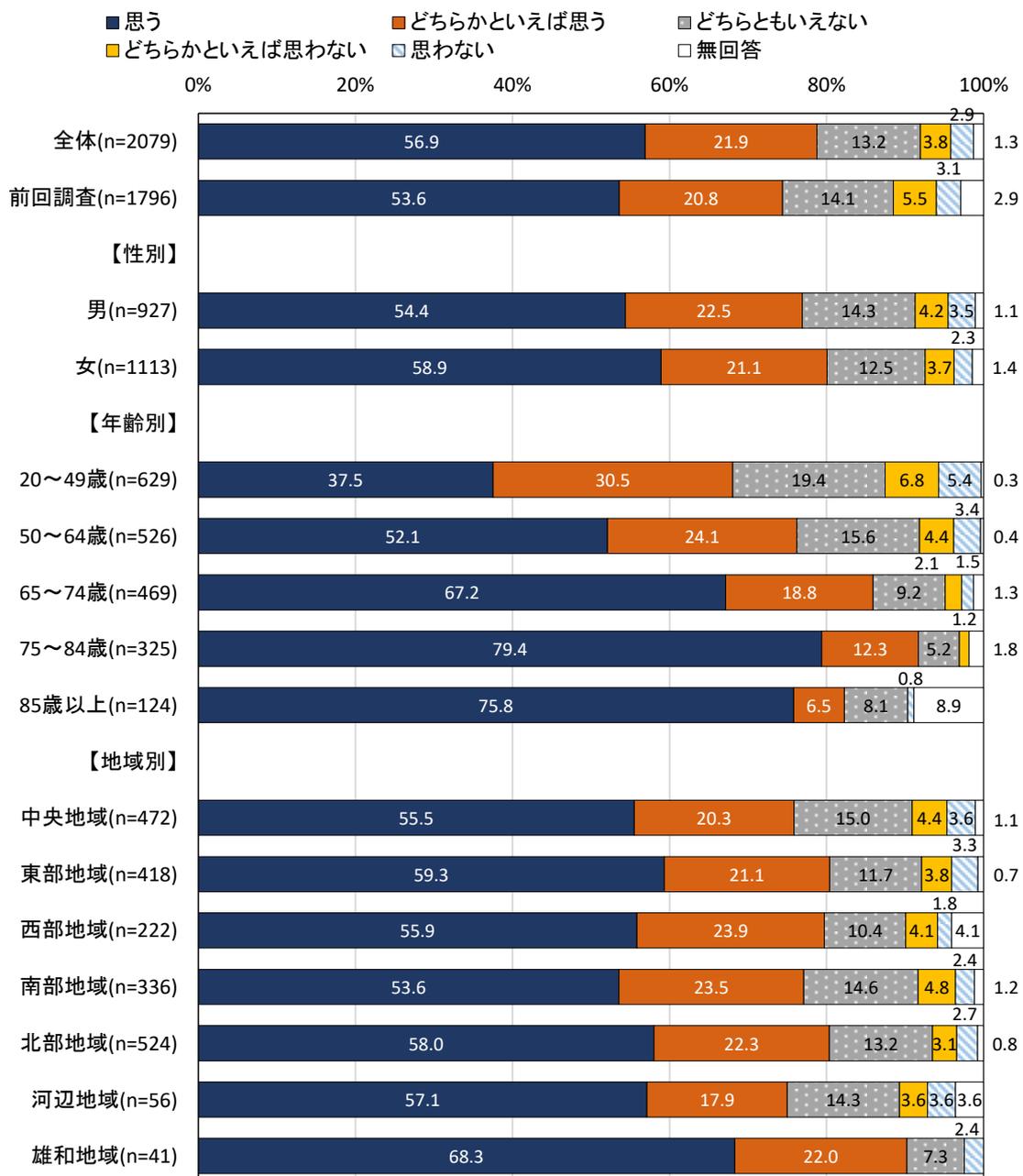
問 46 あなたは、秋田市に今後も住み続けたいと思いますか。次の中から1つ選んで番号に○をつけてください。

秋田市に住み続けたいと思うかについては、「思う」(56.9%)と「どちらかといえば思う」(21.9%)を合わせた“思う”(以下も同じ)の割合が78.8%となり、この割合は前回調査(74.4%)に比べて4.4ポイント上昇し8割近くを占めている。一方、「思わない」(2.9%)と「どちらかといえば思わない」(3.8%)を合わせた“思わない”(以下も同じ)の割合は6.7%と低く、“思う”が“思わない”の割合を大幅に上回っており、秋田市への定住の意向が引き続き強くうかがえる。

性別にみると、男女ともほぼ同様の割合で、“思う”が“思わない”の割合を上回っている。

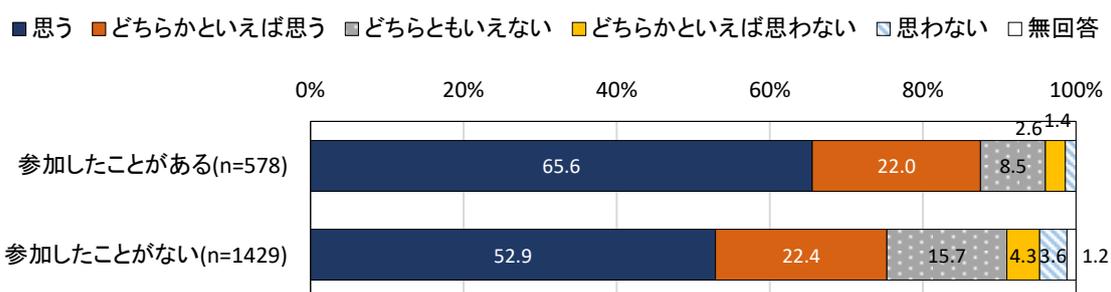
年齢別にみると、“思う”が75～84歳の9割強を始めとして、他の各年代でも7割近くから8割台と高い割合を占め、いずれの年代でも“思わない”の割合を大幅に上回っている。

地域別にみると、雄和地域の9割強を始めとして、いずれの地域でも“思う”の割合が7割以上と高く、“思わない”の割合を大幅に上回っている。



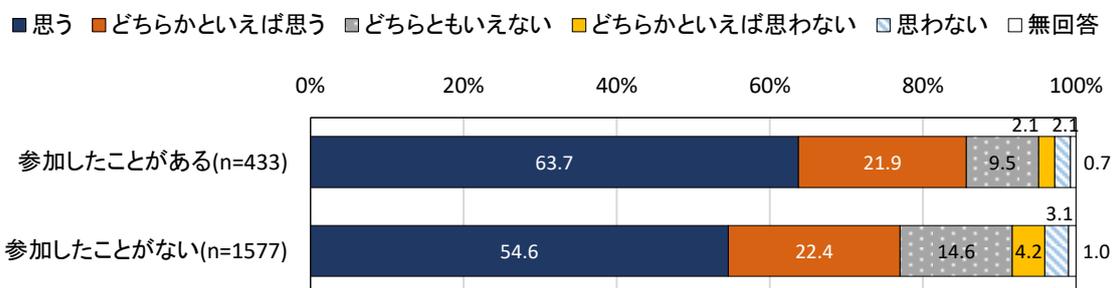
問 29（地域活動への参加状況） × 問 46（今後も秋田市に住み続けたいと思うか）

問 29（地域活動への参加状況）と問 46（今後も秋田市に住み続けたいと思うか）の関連をみると、秋田市に住み続けたいと「思う」と「どちらかといえば思う」を合わせた“思う”の割合は、地域活動に『参加したことがある』では87.6%と9割近くを占め、『参加したことがない』では75.3%と7割台となっている。一方、秋田市に住み続けたいと「思わない」と「どちらかといえば思わない」を合わせた“思わない”割合は、『参加したことがある』では4.0%、『参加したことがない』では7.9%となっており、地域活動に参加したことがある方が“秋田市に住み続けたい”との意向をより強く示している。



問 33（社会参加の状況） × 問 46（今後も秋田市に住み続けたいと思うか）

問 33（社会参加の状況）と問 46（今後も秋田市に住み続けたいと思うか）の関連をみると、秋田市に住み続けたいと「思う」と「どちらかといえば思う」を合わせた“思う”の割合は、社会参加について『参加したことがある』で85.6%と8割以上を占め、『参加したことがない』では77.0%と7割台となっている。一方、秋田市に住み続けたいと「思わない」と「どちらかといえば思わない」を合わせた“思わない”割合は、『参加したことがある』では4.2%、『参加したことがない』では7.3%となっており、社会参加したことがある方が“秋田市に住み続けたい”との意向をより強く示している。



問 47 あなたは普段生活する中で、同居する家族以外の他の世代の方と接する機会がありますか。次の中から1つ選んで番号に○をつけてください。

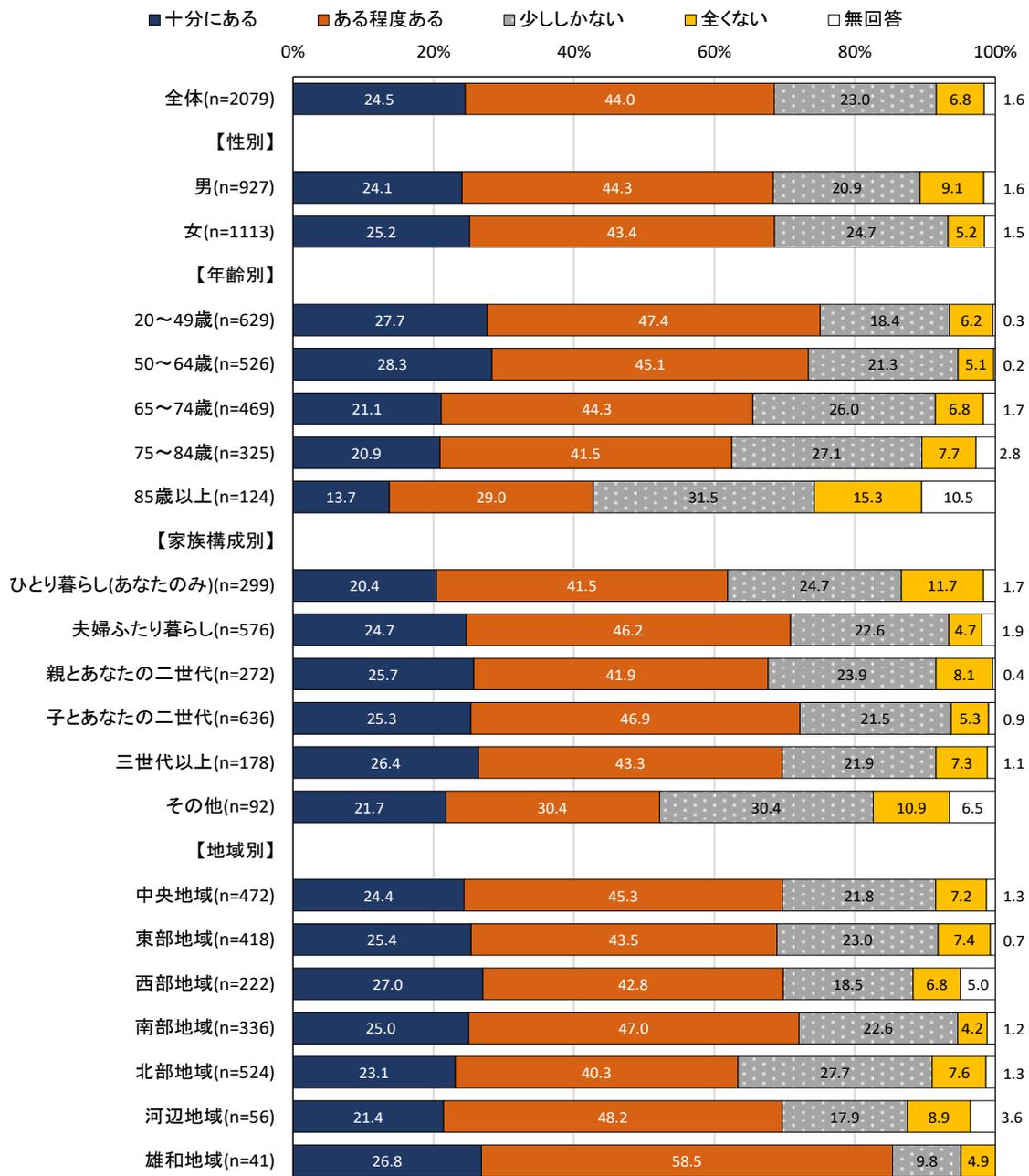
同居する家族以外の他の世代の方と接する機会の有無については、「十分にある」(24.5%)と「ある程度ある」(44.0%)を合わせた“ある”(以下も同じ)の割合が68.5%となり、一方、「全くない」(6.8%)と「少ししかない」(23.0%)を合わせた“ない”(以下も同じ)の割合は29.8%となり、“ある”が“ない”の割合を大幅に上回っている。

性別にみると、男女ともほぼ同様の割合で、“ある”が“ない”の割合を大幅に上回っている。

年齢別にみると、85歳以上では“ない”が“ある”の割合を小幅に上回っているが、20～49歳を始めとして、その他の各年代では“ある”が“ない”の割合を大きく上回っている。

家族構成別(その他を除く)にみると、いずれの家族構成においても“ある”が“ない”の割合を上回っているが、この幅は「ひとり暮らし」の世帯で他の世帯より小幅となっている。

地域別にみると、いずれの地域でも“ある”が“ない”の割合を大幅に上回っている。



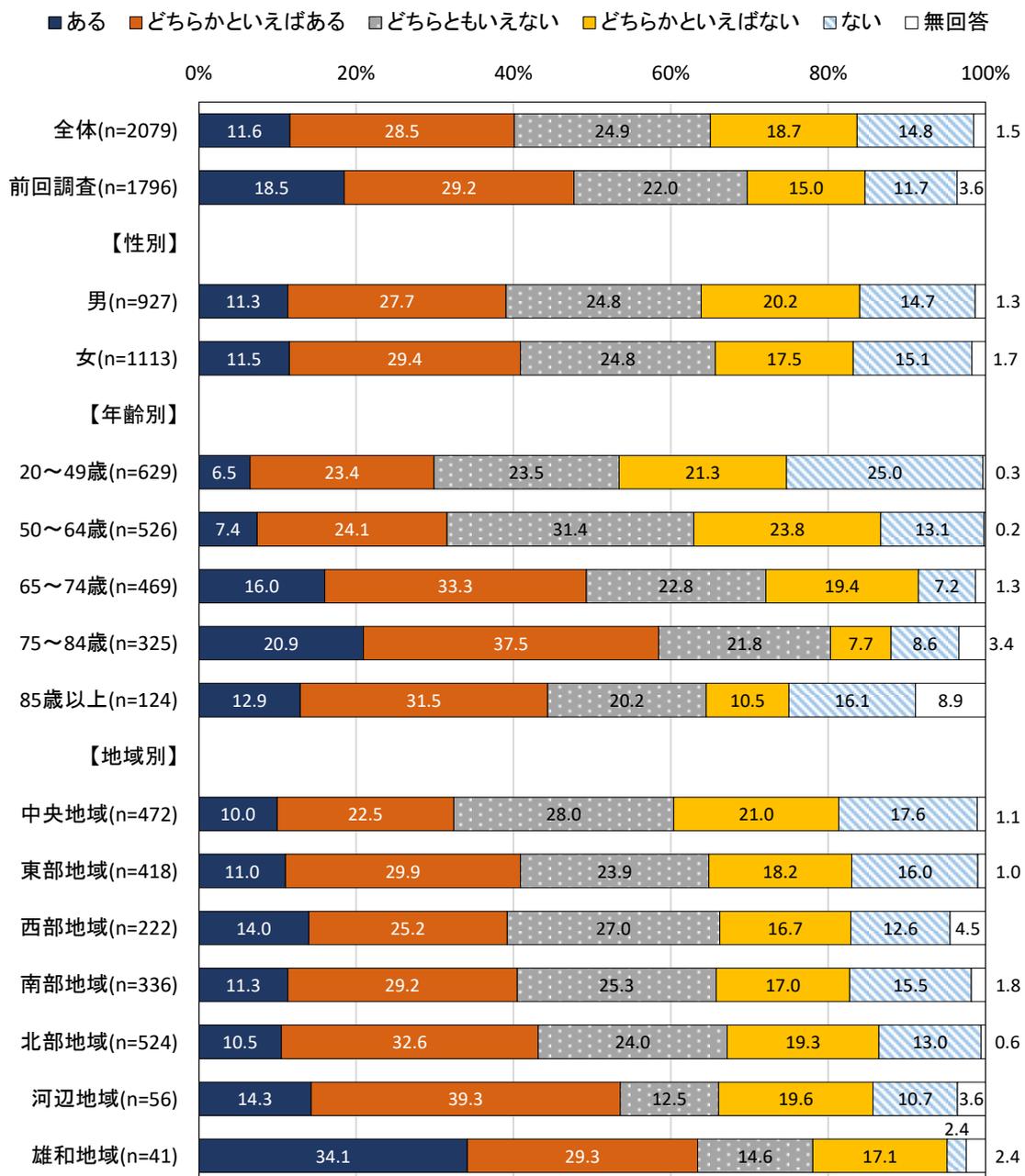
問 48 あなたは普段生活する中で、地域とのつながり（近所づきあいや住民同士の助け合い、支えあい）があると思いますか。次の中から1つ選んで番号に○をつけてください。

地域とのつながり（近所づきあい等）の有無については、「ある」（11.6%）と「どちらかといえばある」（28.5%）を合わせた“ある”（以下も同じ）の割合が40.1%となり、この割合は前回調査（47.7%）に比べて7.6%低下している。一方、「ない」（14.8%）と「どちらかといえばない」（18.7%）を合わせた“ない”（以下も同じ）の割合は33.5%となり、“ある”が“ない”の割合を上回っているが、この幅は前回調査に比べて縮小している。

性別にみると、男女ともほぼ同様の割合で、“ある”が“ない”の割合を上回っている。

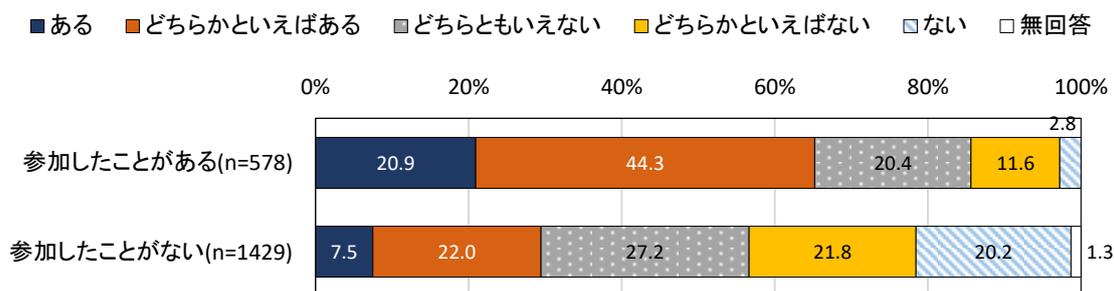
年齢別にみると、“ある”の割合は75～84歳で6割近くと最も高く、65歳以上の各年代で“ない”の割合を上回っているが、20～49歳と50～64歳では“ない”が“ある”を上回っている。

地域別にみると、中央地域では“ない”が“ある”の割合を上回っているが、雄和地域を始めとして、他の地域ではいずれも“ある”が“ない”の割合を上回っている。



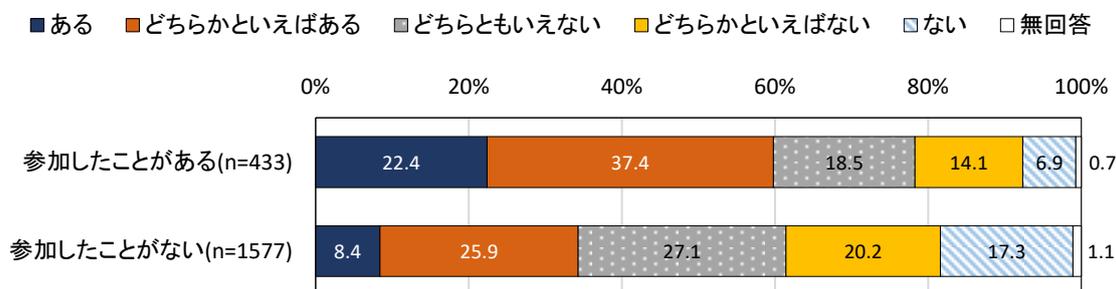
問 29 (地域活動への参加状況) × 問 48 (地域とのつながりがあると思うか)

問 29 (地域活動への参加状況と 問 48 (地域とのつながりがあると思うか) の関連をみると、地域活動に『参加したことがある』では、地域とのつながりが「ある」と「どちらかといえばある」を合わせた“ある”(以下も同じ)の割合は 65.2%となり、地域とのつながりが「ない」と「どちらかといえばない」を合わせた“ない”(以下も同じ)の割合(14.4%)を大幅に上回っている。一方、『参加したことがない』では“ない”の割合が 42.0%で、“ある”の割合(29.5%)を上回っており、地域活動への参加の有無によって、地域とのつながりの実感については大きな差異が生じている。



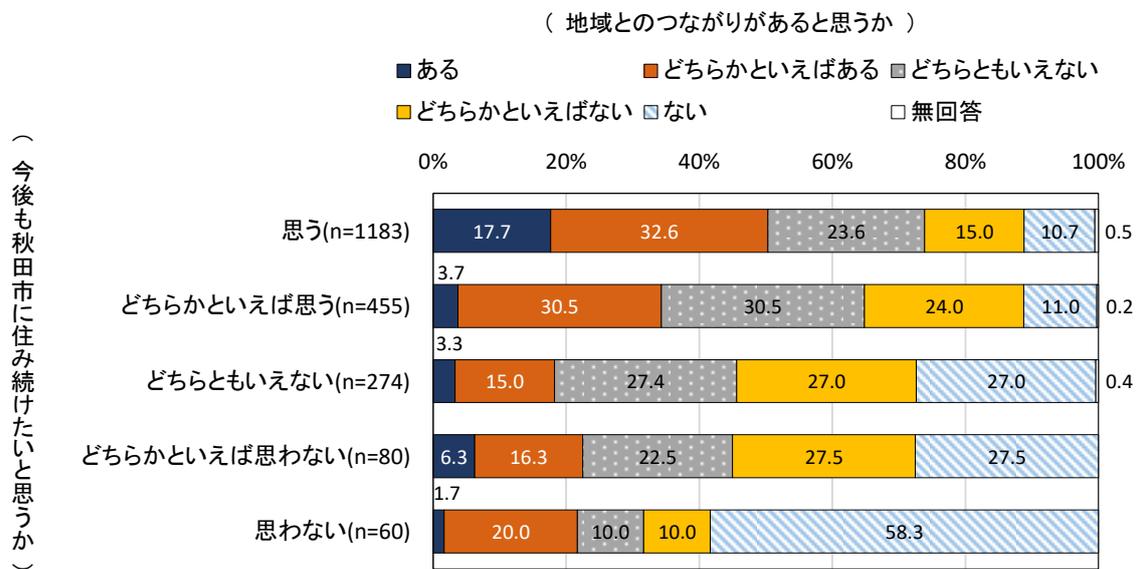
問 33 (社会参加の状況) × 問 48 (地域とのつながりがあると思うか)

問 33 (社会参加の状況) と問 48 (地域とのつながりがあると思うか) の関連をみると、社会参加について『参加したことがある』では、地域とのつながりが「ある」と「どちらかといえばある」を合わせた“ある”(以下も同じ)の割合は 59.8%となり、地域とのつながりが「ない」と「どちらかといえばない」を合わせた“ない”(以下も同じ)の割合(21.0%)を大幅に上回っている。一方、『参加したことがない』では“ない”の割合が 37.5%で、“ある”の割合(34.3%)を小幅ながら上回っており、前述の地域活動への有無と同様に社会参加の有無によって、地域とのつながりの実感については差異が生じている。



問 46（今後も秋田市に住み続けたいと思うか） × 問 48（地域とのつながりがあると思うか）

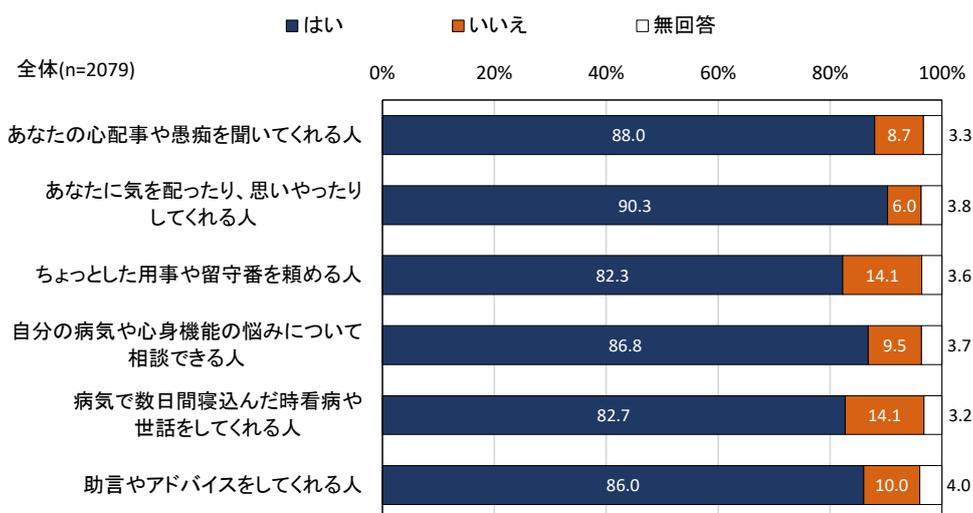
問 46（今後も秋田市に住み続けたいと思うか）と問 48（地域とのつながりがあると思うか）の関連をみると、住み続けたいと「思う」では、地域とのつながりが「ある」と「どちらかといえばある」を合わせた“ある”（以下も同じ）の割合は 50.3%となり、地域とのつながりが「ない」と「どちらかといえばない」を合わせた“ない”（以下も同じ）の割合（25.7%）を大幅に上回っている。また、住み続けたいと「どちらかといえば思う」では“ある”（34.2%）と“ない”（35.0%）の割合が拮抗している。一方、住み続けたいと「思わない」では“ない”（68.3%）が“ある”（21.7%）の割合を 46.6 倍と大幅に上回っているほか、「どちらかといえば思わない」と「どちらともいえない」でも“ない”が“ある”の割合を大幅に上回っている。



問 49 あなたとまわりの人の「たすけあい」についてお伺いします。それぞれの項目ごとにあてはまるものを1つ選んで番号に○をつけてください。

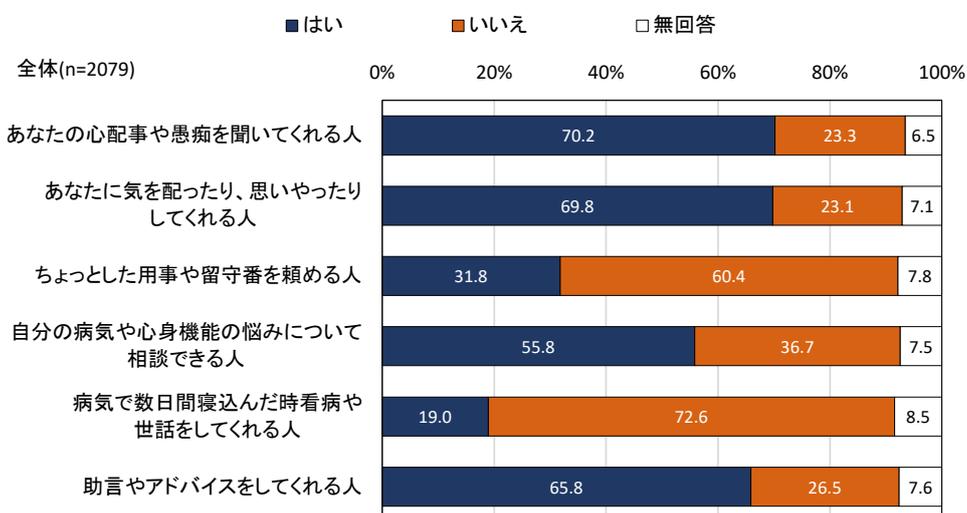
家族との「たすけあい」については、「あなたに気を配ったり、思いやりしてくれる人」で「はい」が90.3%と9割以上を占めたほか、その他の各項目でも8割台と高い割合となっている。一方、「いいえ」はいずれも低い割合ながら、「ちょっとした用事や留守番を頼める人」と「病気で数日間寝込んだ時看病や世話をしてくれる人」(各14.1%)では、ともに1割台と他の項目に比べて幾分割合が高くなっている。

【家族にいますか】



友人との「たすけあい」について「はい」の割合をみると、「病気で数日間寝込んだ時看病や世話をしてくれる人」(19.0%)と「ちょっとした用事や留守番を頼める人」(31.8%)で低い割合となっているが、「あなたに気を配ったり、思いやりしてくれる人」(70.2%)と「あなたに気を配ったり、思いやりしてくれる人」(69.8%)では7割前後と高い割合を占めたほか、「助言やアドバイスをしてくれる人」(65.8%)と「自分の病気や心身機能の悩みについて相談できる人」(55.8%)についても5割以上と割合が高くなっている。

【友人にいますか】



問 49 あなたとまわりの人の「たすけあい」についてお伺いします。それぞれの項目ごとにあてはまるものを1つ選んで番号に○をつけてください。
 1. あなたの心配事や愚痴を聞いてくれる人

心配事や愚痴を聞いてくれる《家族》がいるかについては、「はい」が88.0%と9割近くを占めた一方、「いいえ」は8.7%と1割未満となっている。

性別にみると、「はい」の割合は男性が85.5%、女性が90.2%とともに高い割合ながら、この割合は女性の方が高くなっている。

年齢別にみると、20～49歳の9割台を始めとして、「はい」がいずれの年代でも高い割合を示しているが、85歳以上では78.2%と他の年代に比べて低い割合となっている。

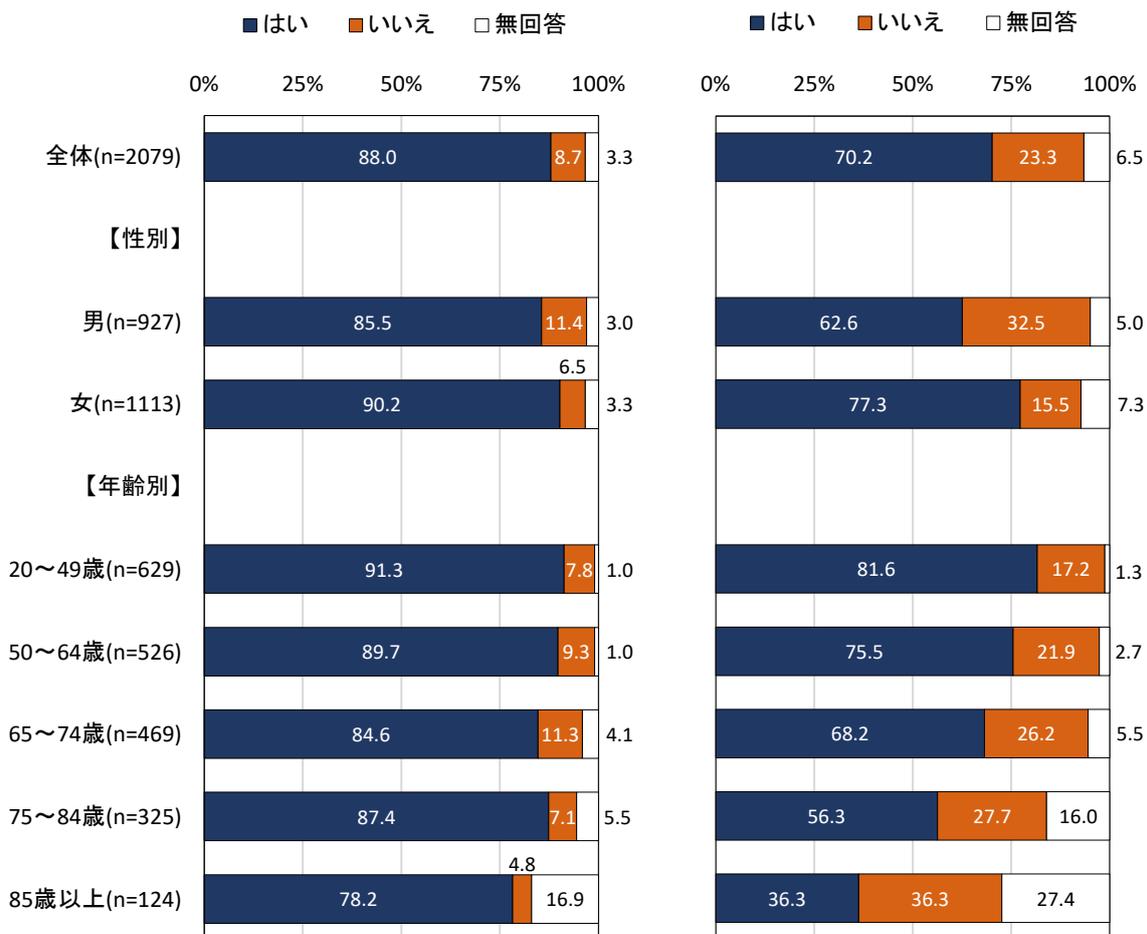
心配事や愚痴を聞いてくれる《友人》がいるかについては、「はい」が70.2%と7割強を占めた一方、「いいえ」は23.3%で2割台となっている。

性別にみると、「はい」の割合は男性が62.6%、女性が77.3%と女性の方が高くなっている。

年齢別にみると、「はい」の割合は20～49歳で81.6%と最も高く、この割合は年齢が上がるにつれて低下し、85歳以上では36.3%まで低下して「いいえ」の割合と同率となっている。

《 家族にいますか 》

《 友人にいますか 》



問 49 あなたとまわりの人の「たすけあい」についてお伺いします。それぞれの項目ごとにあてはまるものを1つ選んで番号に○をつけてください。
2. あなたに気を配ったり、思いやりしてくれる人

気を配ったり、思いやりしてくれる《家族》がいるかについては、「はい」が90.3%と9割強を占めた一方、「いいえ」は6.0%と1割未満となっている。

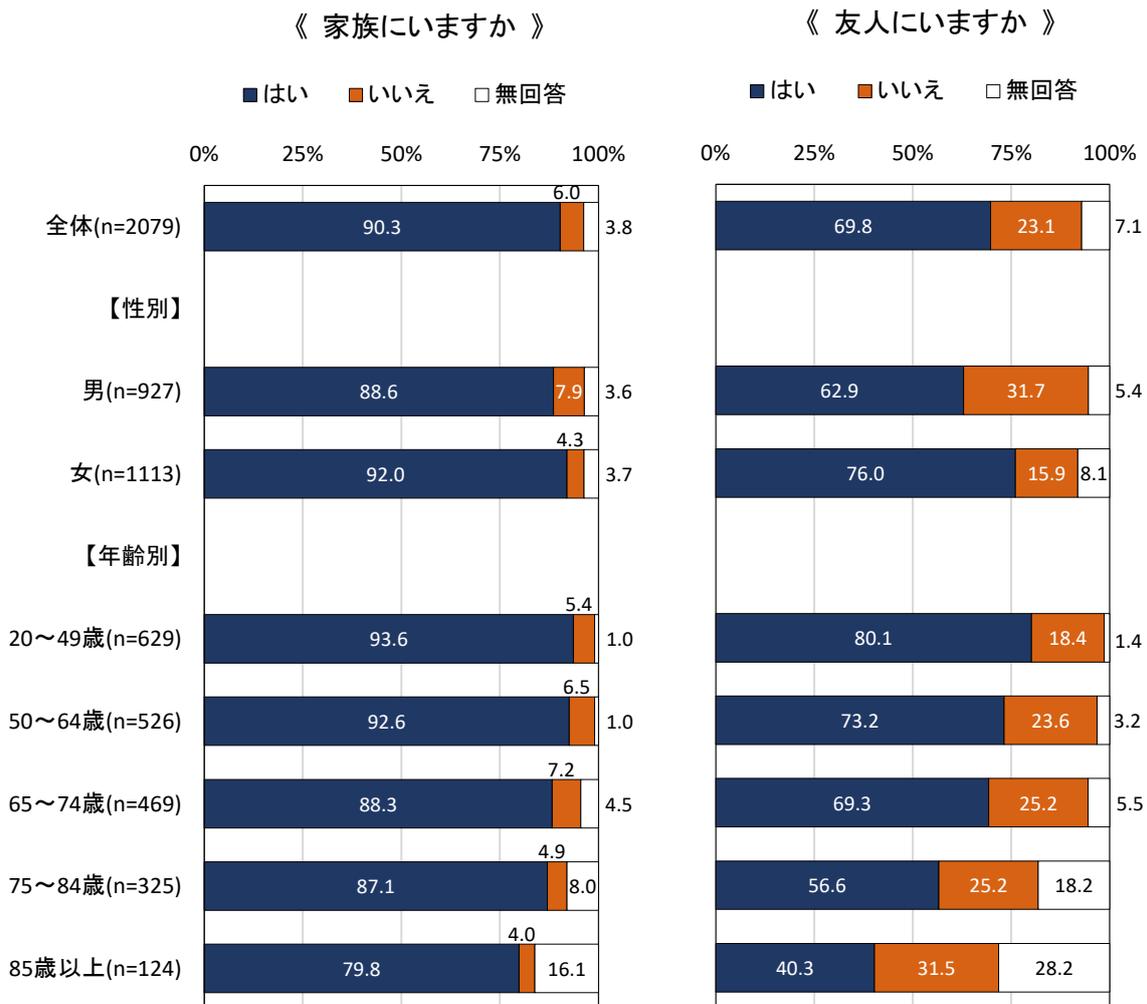
性別にみると、「はい」の割合は男性が88.6%、女性が92.0%とともに高い割合ながら、この割合は女性の方が幾分高くなっている。

年齢別にみると、20～49歳の93.6%を始めとして、「はい」がいずれの年代でも高い割合を示しているが、85歳以上では79.8%と他の年代に比べて低い割合となっている。

気を配ったり、思いやりしてくれる《友人》がいるかについては、「はい」が69.8%と7割近くを占めた一方、「いいえ」は23.1%で2割台となっている。

性別にみると、「はい」の割合は男性が62.9%、女性が76.0%と女性の方が高くなっている。

年齢別にみると、「はい」の割合は20～49歳で80.1%と最も高く、この割合は年齢が上がるにつれて低下し、85歳以上では40.3%と低くなっている。



問 49 あなたとまわりの人の「たすけあい」についてお伺いします。それぞれの項目ごとにあてはまるものを1つ選んで番号に○をつけてください。
3. ちょっとした用事や留守番を頼める人

ちょっとした用事や留守番をたのめる《家族》がいるかについては、「はい」が82.3%と8割台を占めた一方、「いいえ」は14.1%と1割台となっている。

性別にみると、「はい」の割合は男性が82.3%、女性が82.6%とともに8割台を占め、ほぼ同様の割合となっている。

年齢別にみると、20～49歳の90.6%を始めとして、「はい」がいずれの年代でも高い割合を示しているが、85歳以上では70.2%、75～84歳でも72.0%と他の年代に比べて低い割合となっている。

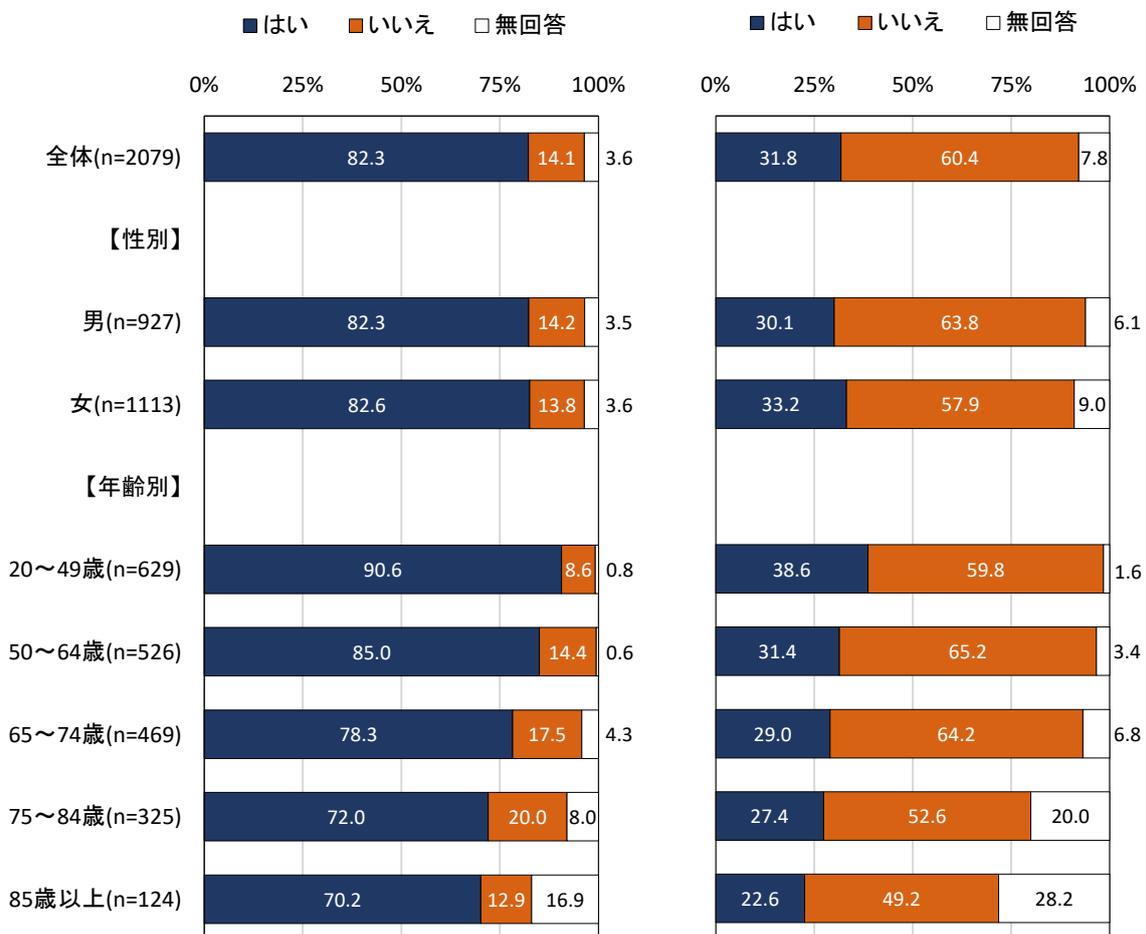
ちょっとした用事や留守番をたのめる《友人》がいるかについては、「いいえ」の割合が60.4%と6割強と占め、「はい」の割合（31.8%）を大きく上回っている。

性別にみると、「いいえ」の割合は男性が63.8%、女性が57.9%と、ともに5割以上ながら、この割合は男性の方が高くなっている。

年齢別にみると、「いいえ」の割合は50～64歳で65.2%と最も高く、85歳以上では49.2%と他の年代より低くなっているが、いずれの年代でも「はい」の割合を大幅に上回っている。

《 家族にいますか 》

《 友人にいますか 》



問 49 あなたとまわりの人の「たすけあい」についてお伺いします。それぞれの項目ごとにあてはまるものを1つ選んで番号に○をつけてください。
4. 自分の病気や心身機能の悩みについて相談できる人

自分の病気や心身機能の悩みを相談できる《家族》がいるかについては、「はい」が86.8%と8割台を占めた一方、「いいえ」は9.5%と1割未満となっている。

性別にみると、「はい」の割合は男性が85.8%、女性が87.9%と、ともに8割台を占めているが、この割合は女性の方が幾分高くなっている。

年齢別にみると、20～49歳の88.7%を始めとして、「はい」がいずれの年代でも高い割合を示しているが、85歳以上では79.0%と他の年代に比べて低い割合となっている。

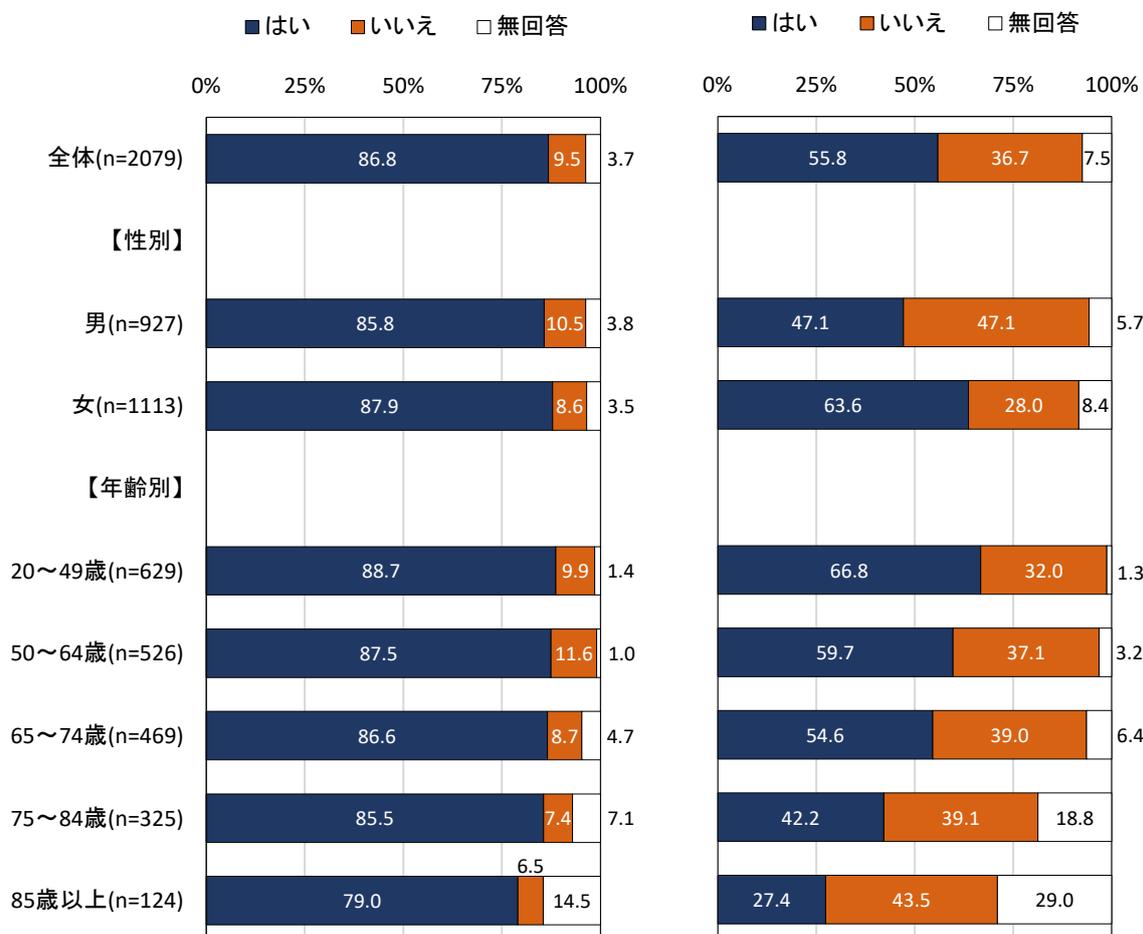
自分の病気や心身機能の悩みを相談できる《友人》がいるかについては、「はい」が55.8%と半数以上を占め、「いいえ」の割合（36.7%）を上回っている。

性別にみると、「はい」の割合は女性が63.6%と6割台となった一方、男性は47.1%と女性より低く、「いいえ」の割合と同率となっている。

年齢別にみると、「はい」の割合は20～49歳で66.8%と最も高く、84歳までの各年代では「いいえ」の割合を上回っているが、この割合は年齢が上がるにつれて低下し、85歳以上では27.4%まで低下しており、「いいえ」が「はい」の割合を上回っている。

《 家族にいますか 》

《 友人にいますか 》



問 49 あなたとまわりの人の「たすけあい」についてお伺いします。それぞれの項目ごとにあてはまるものを1つ選んで番号に○をつけてください。
6. 助言やアドバイスをしてくれる人

助言やアドバイスをしてくれる《家族》がいるかについては、「はい」が86.0%と8割台を占めた一方、「いいえ」は10.0%で1割となっている。

性別にみると、「はい」の割合は男性が84.7%、女性が87.3%とともに8割台を占めているが、この割合は女性の方が幾分高くなっている。

年齢別にみると、20～49歳の89.3%を始めとして、「はい」がいずれの年代でも高い割合を示しているが、85歳以上では76.6%と他の年代に比べて低い割合となっている。

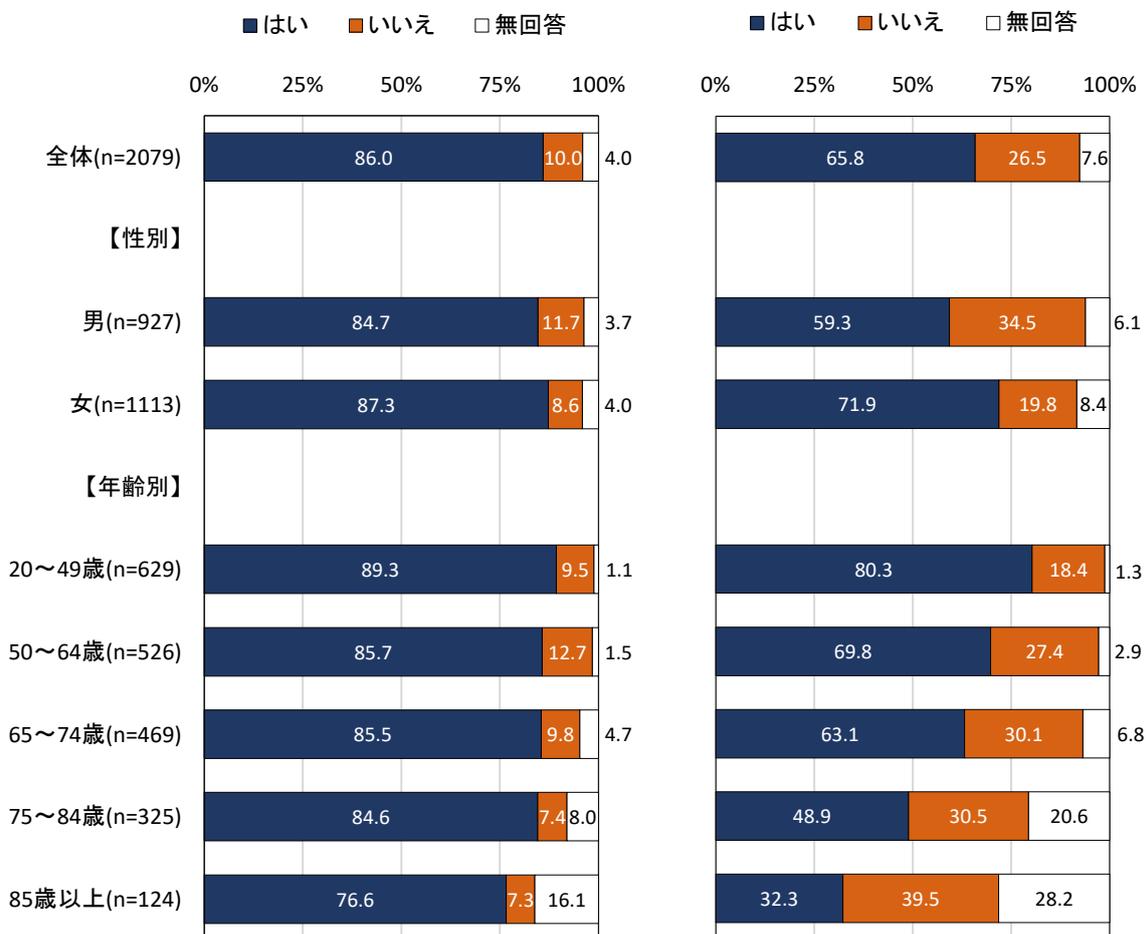
助言やアドバイスをしてくれる《友人》がいるかについては、「はい」が65.8%と6割台を占め、「いいえ」の割合（26.5%）を上回っている。

性別にみると、「はい」の割合は男性が59.3%、女性が71.9%とともに5割以上ながら、この割合は女性の方が高くなっている。

年齢別にみると、「はい」の割合は20～49歳で80.3%と最も高く、84歳までの各年代では「いいえ」の割合を上回っているが、この割合は年齢が上がるにつれて低下し、85歳以上では32.3%まで低下しており、「いいえ」が「はい」の割合を上回っている。

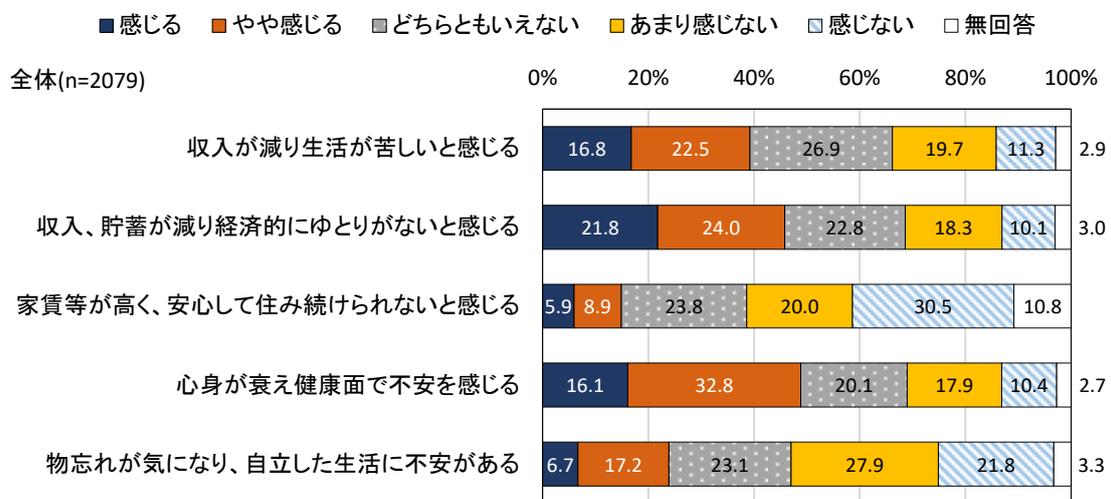
《 家族にいますか 》

《 友人にいますか 》



問 50 あなたは、現在の生活における、経済的自立や健康的自立について、どのように感じていますか。それぞれの項目ごとにあてはまるものを1つ選んで番号に○をつけてください。

経済的自立や健康的自立についてどのように感じているかについては、全体としては項目ごとで実感に違いが見られるが、「収入が減り生活が苦しいと感じる」、「収入、貯蓄が減り経済的にゆとりがないと感じる」、「心身が衰え健康面で不安を感じる」の3項目では、「感じる」と「やや感じる」を合わせた“感じる”（以下も同じ）が「感じない」と「あまり感じない」を合わせた“感じない”（以下も同じ）の割合を上回っている。一方、「家賃等が高く、安心して住み続けられないと感じる」と「物忘れが気になり、自立した生活に不安がある」では“感じない”が“感じる”の割合を上回っている。



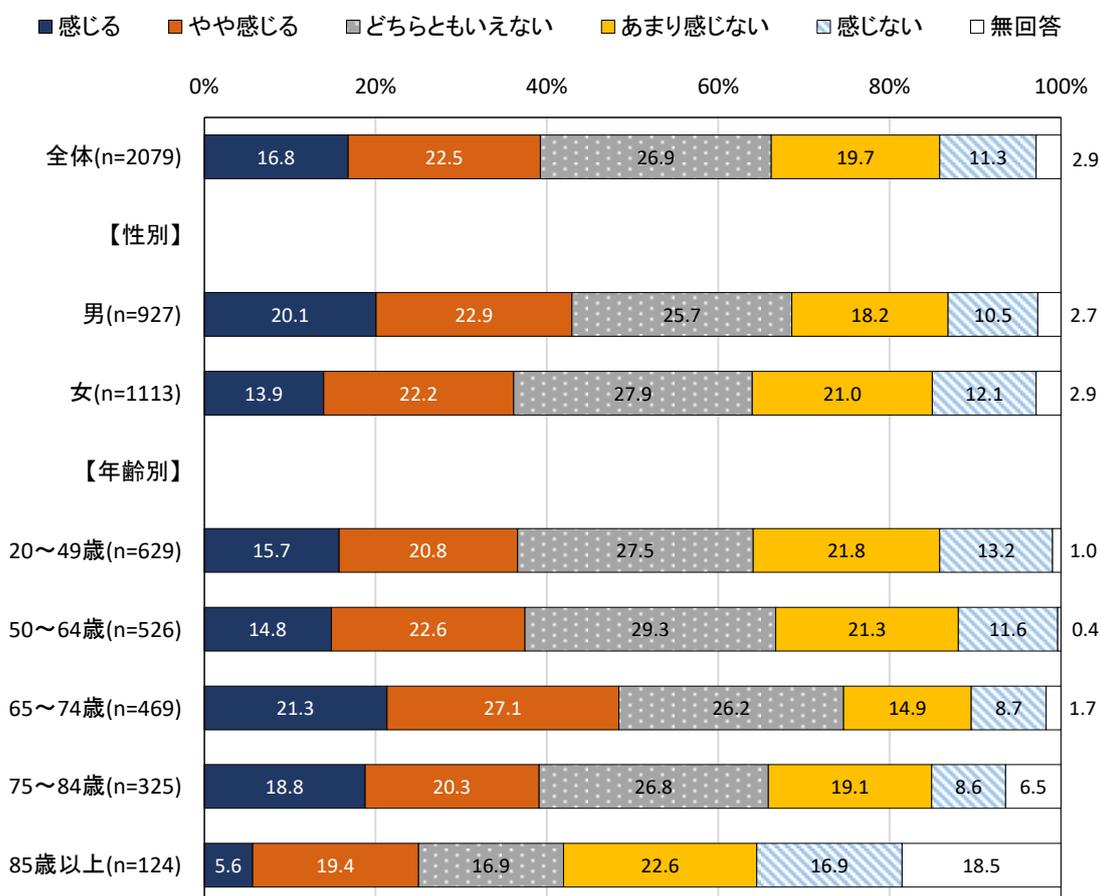
問 50 あなたは、現在の生活における、経済的自立や健康的自立について、どのように感じていますか。それぞれの項目ごとにあてはまるものを1つ選んで番号に○をつけてください。

1. 収入が減り生活が苦しいと感じる

収入が減り生活が苦しいと感じるかについては、「感じる」(16.8%)と「やや感じる」(22.5%)を合わせた“感じる”(以下も同じ)の割合が39.3%で、一方、「感じない」(11.3%)と「あまり感じない」(19.7%)を合わせた“感じない”(以下も同じ)の割合は31.0%となり、“感じる”が“感じない”の割合を8.3%上回っている。

性別にみると、“感じる”の割合は女性より男性の方が高く、一方、“感じない”の割合は男性よりも女性の方が高いなど男女間で違いはあるものの、男女とも、“感じる”が“感じない”の割合を上回っている。

年齢別にみると、85歳以上では“感じない”が“感じる”の割合を上回っているが、65～74歳を始め、その他の各年代ではいずれも“感じる”が“感じない”の割合を上回っている。



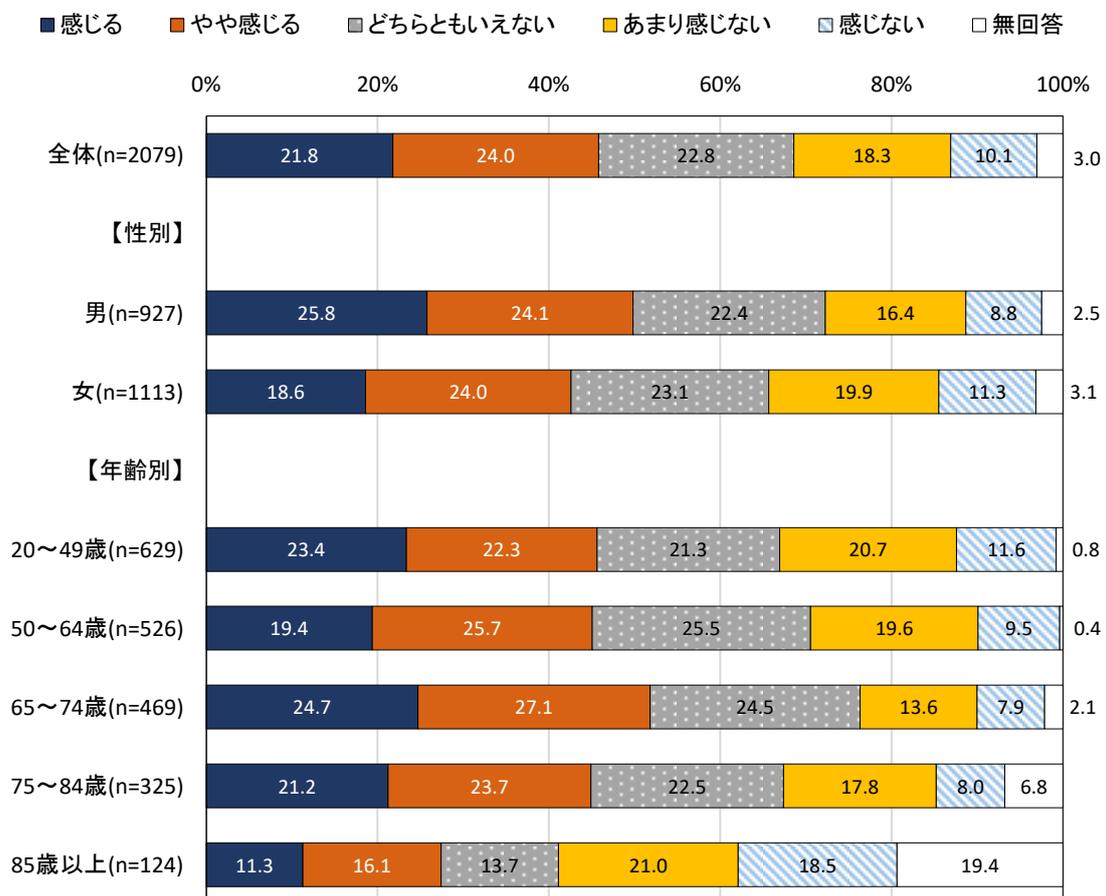
問 50 あなたは、現在の生活における、経済的自立や健康的自立について、どのように感じていますか。それぞれの項目ごとにあてはまるものを1つ選んで番号に○をつけてください。

2. 収入、貯蓄が減り経済的にゆとりがないと感じる

収入や貯蓄が減り経済的にゆとりがないと感じるかについては、「感じる」(21.8%)と「やや感じる」(24.0%)を合わせた“感じる”(以下も同じ)の割合が45.8%で、一方、「感じない」(10.1%)と「あまり感じない」(18.3%)を合わせた“感じない”(以下も同じ)の割合は28.4%となり、“感じる”が“感じない”の割合を17.4%上回っている。

性別にみると、“感じる”の割合は女性より男性の方が高く、一方、“感じない”の割合は男性よりも女性の方が高いなど男女間で違いはあるものの、男女とも、“感じる”が“感じない”の割合を上回っている。

年齢別にみると、85歳以上では“感じない”が“感じる”の割合を上回っているが、65～74歳を始め、その他の各年代ではいずれも“感じる”が“感じない”の割合を上回っている。



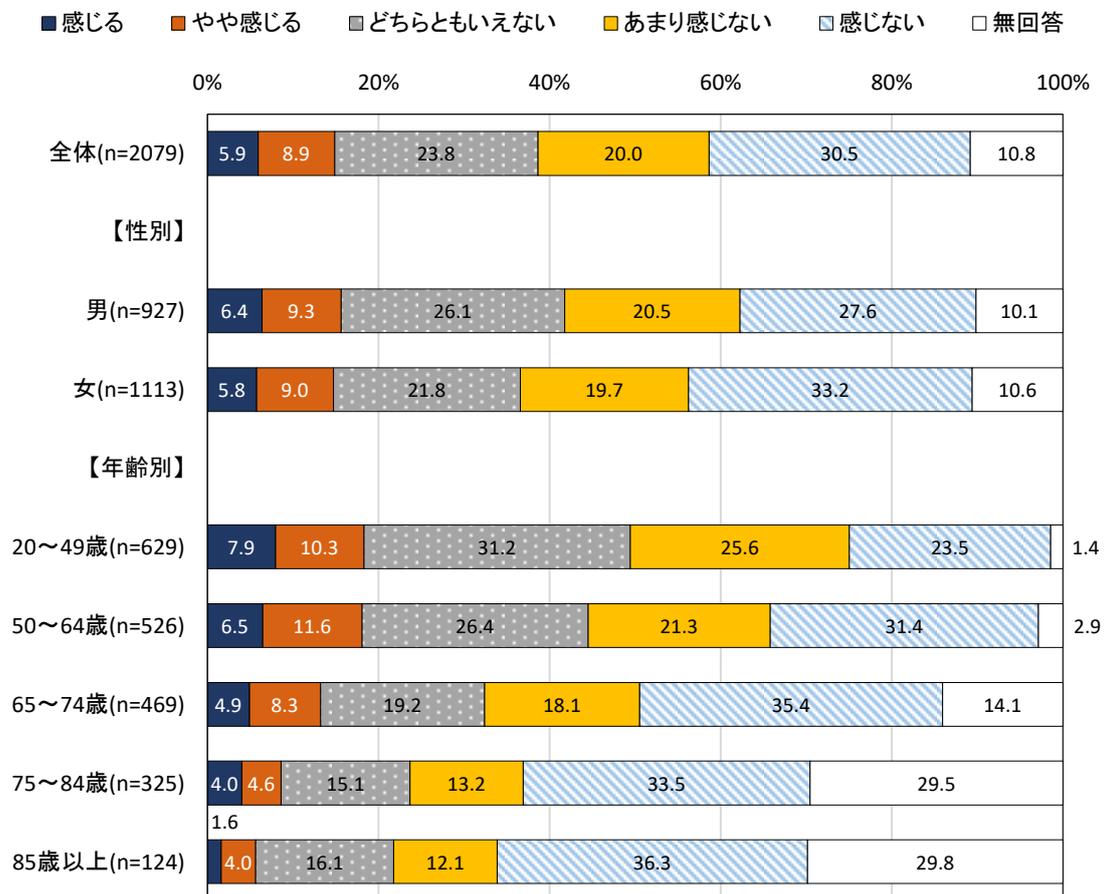
問 50 あなたは、現在の生活における、経済的自立や健康的自立について、どのように感じていますか。それぞれの項目ごとにあてはまるものを1つ選んで番号に○をつけてください。

3. 家賃等が高く、安心して住み続けられないと感じる

家賃等が高いため安心して住み続けられないと感じるかについては、「感じる」(5.9%)と「やや感じる」(8.9%)を合わせた“感じる”(以下も同じ)の割合が14.8%で、一方、「感じない」(30.5%)と「あまり感じない」(20.0%)を合わせた“感じない”(以下も同じ)の割合は50.5%となり、“感じない”が“感じる”の割合を35.7%と大幅に上回っている。

性別にみると、“感じない”の割合が男性より女性の方が高いなど、男女間で幾分違いはあるものの、男女とも“感じない”が“感じる”の割合を大幅に上回っている。

年齢別にみると、85歳以上を始めとして、いずれの年代でも“感じない”が“感じる”の割合を大幅に上回っている。



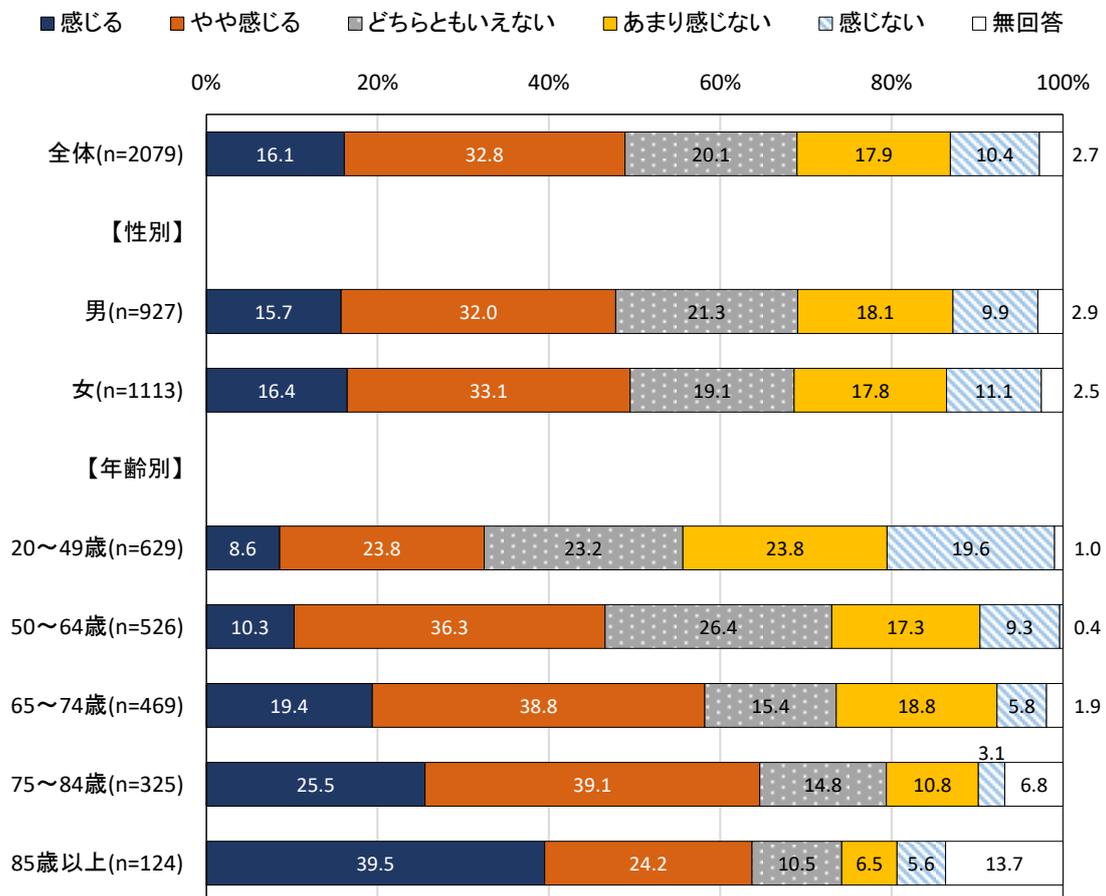
問 50 あなたは、現在の生活における、経済的自立や健康的自立について、どのように感じていますか。それぞれの項目ごとにあてはまるものを1つ選んで番号に○をつけてください。

4. 心身が衰え健康面で不安を感じる

心身が衰え健康面で不安を感じるかについては、「感じる」(16.1%)と「やや感じる」(32.8%)を合わせた“感じる” (以下も同じ) の割合が48.9%で、一方、「感じない」(10.4%)と「あまり感じない」(17.9%)を合わせた“感じない” (以下も同じ) の割合は28.3%となり、“感じる”が“感じない”の割合を20.6%上回っている。

性別にみると、男女ともほぼ同様の割合を示し、“感じる”が“感じない”の割合を上回っている。

年齢別にみると、20～49歳では“感じない”が“感じる”の割合を上回っているが、85歳以上を始め、その他の各年代ではいずれも“感じる”が“感じない”の割合を上回っている。



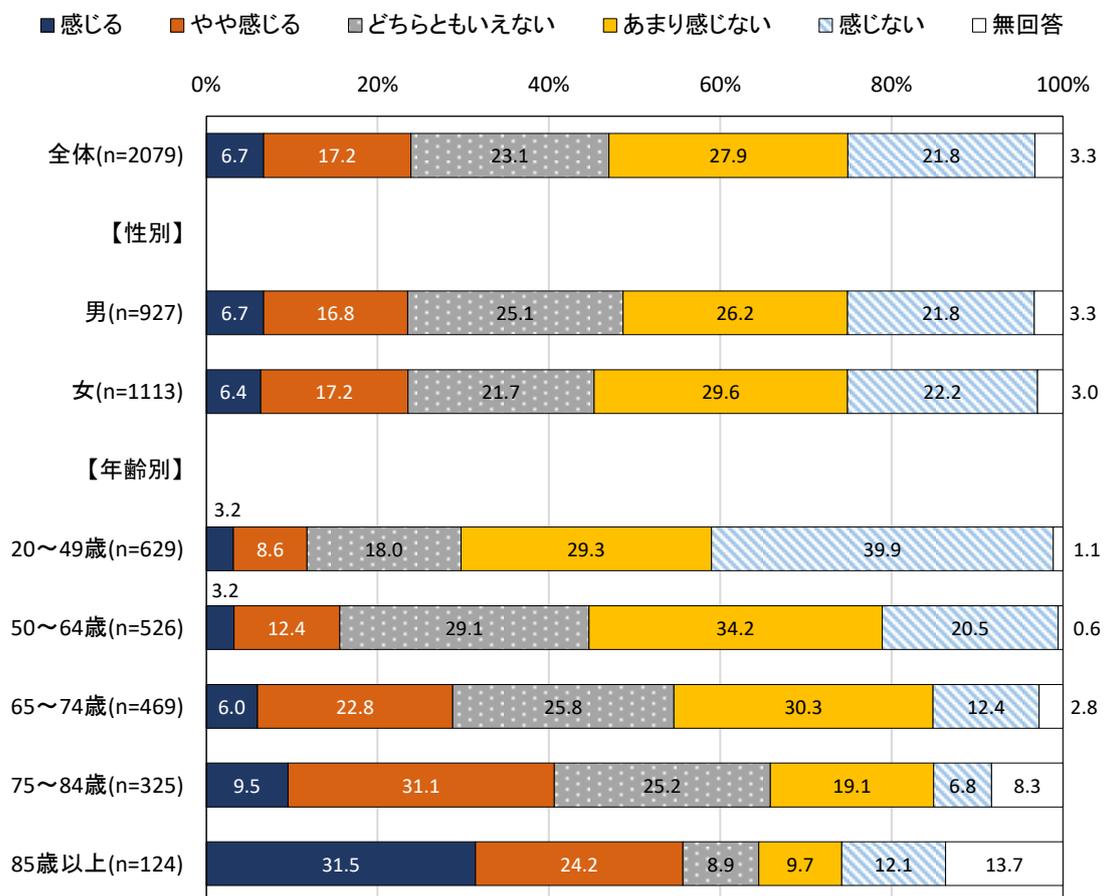
問 50 あなたは、現在の生活における、経済的自立や健康的自立について、どのように感じていますか。それぞれの項目ごとにあてはまるものを1つ選んで番号に○をつけてください。

5. 物忘れが気になり、自立した生活に不安がある

物忘れが気になり、自立した生活に不安があるかについては、「感じる」(6.7%)と「やや感じる」(17.2%)を合わせた“感じる”(以下も同じ)の割合が23.9%で、一方、「感じない」(21.8%)と「あまり感じない」(27.9%)を合わせた“感じない”(以下も同じ)の割合は49.7%となり、“感じない”が“感じる”の割合を25.8%上回っている。

性別にみると、男女ともほぼ同様の割合を示し、“感じない”が“感じる”の割合を上回っている。

年齢別にみると、85歳以上を始め、75～84歳でも“感じる”が“感じない”の割合を上回っているが、74歳以下の各年代ではいずれも“感じない”が“感じる”の割合を上回っている。



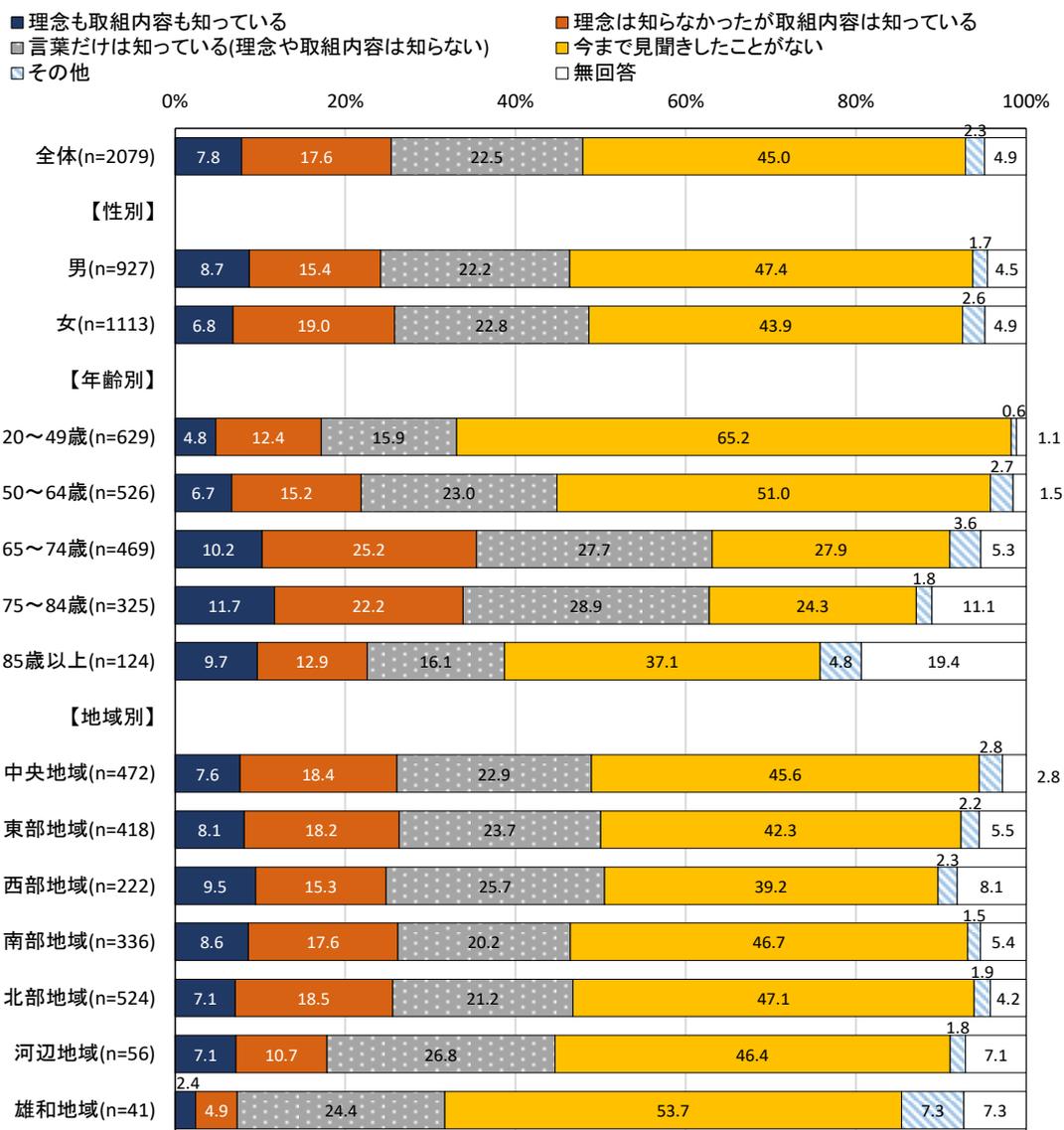
問 51 秋田市が取り組む「エイジフレンドリーシティ（高齢者にやさしい都市）」について知っていますか。次の中から1つ選んで番号に○をつけてください。

エイジフレンドリーシティの認知度については、「今まで見聞きしたことがない」の割合が45.0%と最も高いものの、この割合は前回調査（65.1%）に比べて大幅に低下している。以下については「言葉だけは知っている」（22.5%）、「理念は知らなかったが取組内容は知っている」（17.6%）、「理念も取組内容も知っている」（7.8%）の順で、これらを合計した“知っている”の割合は47.9%と前回調査（30.1%）に比べて大きく上昇しており、全体としては認知度に改善が見られる。

性別にみると、男女間で割合に幾分違いは見られるが、男女とも「今まで見聞きしたことがない」の割合（男性47.4%、女性43.9%）が最も高く、「言葉だけは知っている」（男性22.2%、女性22.8%）が続くなど、同様の順位となっている。

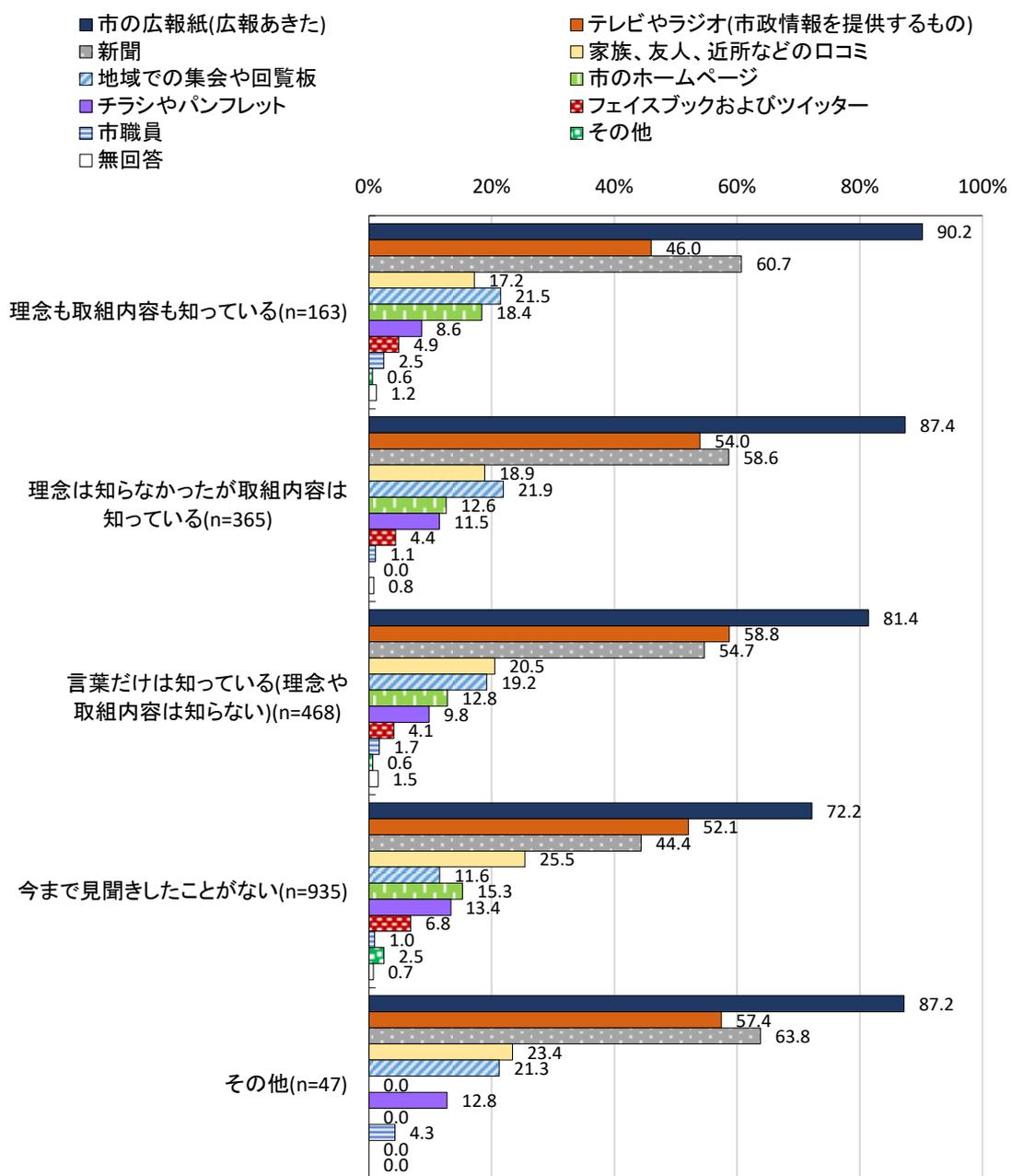
年齢別にみると、20～49歳の65.2%を始めとして、75～84歳を除く各年代ではいずれも「今まで見聞きしたことがない」の割合が最も高く、65～74歳と75～84歳では「言葉だけは知っている」と「理念は知らなかったが取組内容は知っている」が他の年代より高くなっている。

地域別にみると、雄和地域の53.7%を始めとして、いずれの地域でも「今まで見聞きしたことがない」の割合が最も高く、次いで「言葉だけは知っている」が2割台で続いている。



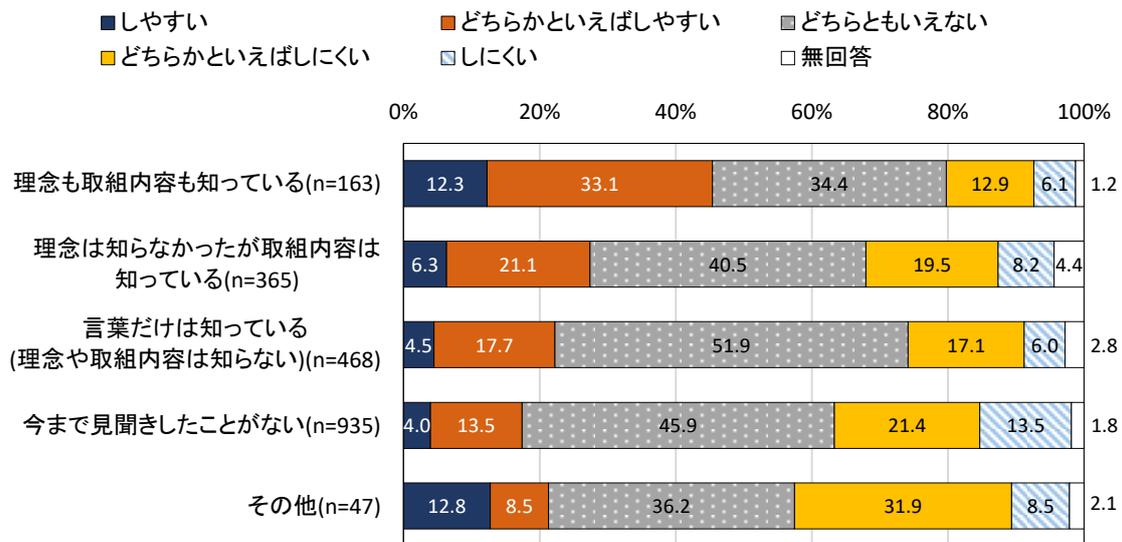
問 51 (エイジフレンドリーシティ認知度) × 問 21 (市政情報の主な入手先)

問 51 (エイジフレンドリーシティ認知度) と問 21 (市政情報の主な入手先) の関連をみると、『理念も取組内容も知っている』の 90.2% を始めとして、いずれの項目でも「市の広報紙」の割合が最も高いものの、この割合は『今まで見聞きしたことがない』で 72.2% と他の項目に比べて低くなっている。他の上位項目については、「テレビやラジオ」は『理念も取組内容も知っている』で 4 割台ながら他の項目ではいずれも 5 割台と幾分割合が高くなっており、「新聞」は『理念も取組内容も知っている』と『理念は知らなかったが取組内容は知っている』で 6 割前後と他の項目より高い割合となっている。また、「家族、友人、近所の口コミ」については『今まで見聞きしたことがない』と『言葉だけは知っている』で 2 割台と幾分割合が高くなっていく。



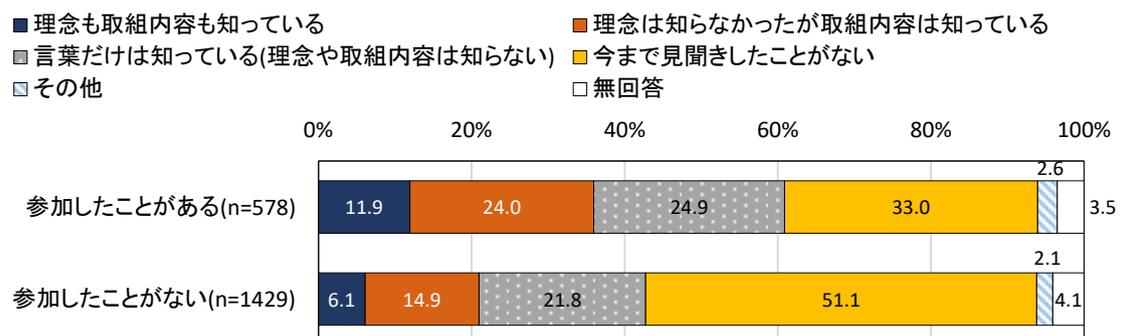
問 51 (エイジフレンドリーシティ認知度) × 問 22 (福祉に関する情報の入手しやすさ)

問 51 (エイジフレンドリーシティ認知度) と問 22 (福祉に関する情報の入手しやすさ) の関連をみると、『理念も取組内容も知っている』では福祉に関する情報の入手について「しやすい」(12.3%)と「どちらかといえばしやすい」(33.1%)を合わせた“しやすい”(以下も同じ)の割合45.4%となり、「しにくい」(6.1%)と「どちらかといえばしにくい」(12.9%)を合わせた“しにくい”(以下も同じ)の割合(19.0%)を大幅に上回っている。一方、『今まで見聞きしたことがない』では“しにくい”(34.9%)が“しやすい”(17.5%)の割合を上回っている。また、『言葉だけは知っている』と『理念は知らなかったが取組内容は知っている』では“しやすい”と“しにくい”の割合がほぼ拮抗している。



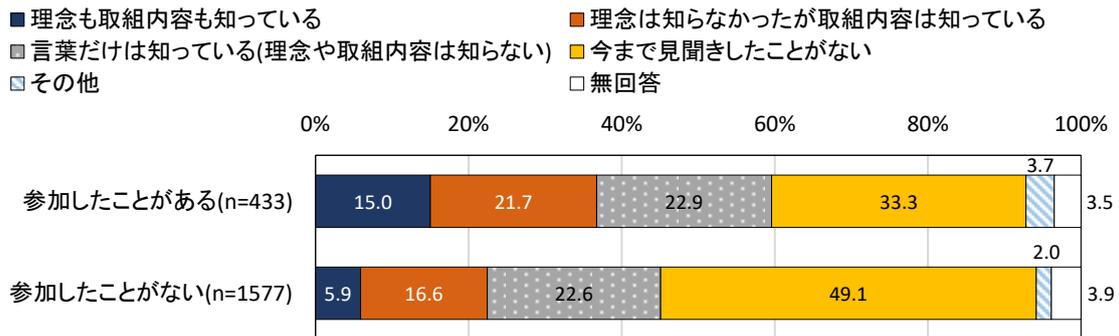
問 29 (地域活動への参加状況) × 問 51 (エイジフレンドリーシティ認知度)

問 29 (地域活動への参加状況) と問 51 (エイジフレンドリーシティ認知度) の関連をみると、「理念も内容も知っている」、「理念は知らなかったが取組内容は知っている」、「言葉だけは知っている」を合わせた“知っている”の割合は、『参加したことがある』(60.8%)の方が『参加したことがない』(42.8%)より高くなっている。一方、「今まで見聞きしたことがない」の割合は、『参加したことがない』(51.1%)の方が『参加したことがある』(33.0%)より高くなっており、エイジフレンドリーシティの認知度には違いが見られる。



問 33 (社会参加の状況) × 問 51 (エイジフレンドリーシティ認知度)

問 33 (社会参加の状況) と問 51 (エイジフレンドリーシティ認知度) の関連をみると、「理念も内容も知っている」、「理念は知らなかったが取組内容は知っている」、「言葉だけは知っている」を合わせた“知っている”の割合は、『参加したことがある』(59.6%)の方が『参加したことがない』(45.1%)より高くなっている。一方、「今まで見聞きしたことがない」の割合は、『参加したことがない』(49.1%)の方が『参加したことがある』(33.3%)より高くなっており、エイジフレンドリーシティの認知度には違いが見られる。



問 51 (エイジフレンドリーシティ認知度) × 問 48 (地域とのつながりがあると思うか)

問 51 (エイジフレンドリーシティ認知度) と問 48 (地域とのつながりがあると思うか) の関連をみると、『理念も取組内容も知っている』では地域とのつながりが「ある」(26.4%)と「どちらかといえばある」(28.8%)を合わせた“ある”(以下も同じ)の割合 55.2%となり、「ない」(8.6%)と「どちらかといえはない」(14.7%)を合わせた“ない”(以下も同じ)の割合(23.3%)を大幅に上回っており、『言葉だけは知っている』と『理念は知らなかったが取組内容は知っている』でも“ある”が“ない”の割合を上回っている。一方、『今まで見聞きしたことがない』では“ない”(44.2%)が“ある”(30.5%)の割合を上回っている。

